

第八回 貴族院議事速記録第三十二號

明治二十八年三月二日(土曜日)

午前十時五十一分開議

議事日程 第三十二號 明治二十八年三月二日

午前十時開議

- 第一 明治二十三年法律第二十五號中追加法律案(政府提出案)
第一讀會ノ續(特別委員報告)
- 第二 日本銀行課稅法案(衆議院提出案)
第一讀會ノ續(特別委員報告)
- 第三 日本銀行條例中改正法律案(衆議院提出案)
第一讀會ノ續(特別委員報告)
- 第四 明治二十三年法律第七十二號貯蓄銀行條例中改正法律案(衆議院提出案)
第一讀會ノ續(特別委員報告)
- 第五 郵便條例中改正法律案(衆議院提出案)
第一讀會ノ續(特別委員報告)
- 第六 郡制改正法律案(衆議院提出案)
第一讀會ノ續(特別委員報告)
- 第七 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ特別委員ノ選舉

○議長(侯爵蜂須賀茂韶君) 一昨日本院ニ於テ衆議院提出酒造稅則中改正法律案ヲ否決致シマシタル旨ヲ衆議院ニ通知致シマシテゴザイマス、昨日男爵金子有卿君ヨリ二十二ノ贊成ヲ以テ府縣稅徵收法中改正法律案ヲ發議セラレマシテゴザイマス、中村良謙君二月二十六日貴族院令第一條五項ニ依リ貴族院議員ニ任ゼラレタル旨内閣總理大臣ノ通牒ヲ受領致シマシテゴザイマス、中村良謙君ノ席次ハ吉村角次郎君ノ次ニ相成リマス、部屬ハ第一部ニ編入ニ相成リマス、保存林地法案特別委員會ニ於テ委員長ニ公爵一條基弘君、副委員長ニ藤村紫朗君當選ニ相成リマシテゴザイマス、議事日程ニ移リマス、明治二十三年法律第二十五號中追加法律案、政府提出衆議院送付、第一讀會ヲ開キマス、特別委員長報告、

(子爵岡部長職君演壇ニ登ル)

○子爵岡部長職君 此法案ニ就キマシテ特別委員ハ一度ノ委員會ヲ開キマシテ速ニ結了ヲ致シマシタルデアリマス、此第五條ヲ追加スルト云フコトニ就キマシテ段々政府委員ニモ質問ヲ致シマシタルデアリマス、此追加スルノ必要ナル所ノ理由ハ誠ニ簡單ニシテ明瞭ナルモノデアリマス、其大要ハ既ニ此法案ノ理由トシテ記載シテアリマス、通リ諸君ニ於キマシテモ御熟讀

ニ相成リマシタルコトデアリマス、最早大體ハ此極簡單ナル理由書ニ皆籠ッテ居リマス、ト考ヘマス、此現行、即チ鎖店銀行紙幣交換基金特別會計法ニ依リマス、ト此特別會計ナルモノハ國立銀行條例第九十八條ニ依リマシテ定メラレタル所ノ鎖店銀行紙幣交換基金ノ特別會計ニ止マッテ居ルノデス、是レハ即チ官命ヲ以テ鎖店ニ相成ッタル所ノ國立銀行ニ止マルノデアリマス、所ガ平穩鎖店ヲ爲シ又ハ營業滿期ニ至リタル國立銀行ニシテ發行紙幣ノ交換ヲ結了シテナカッタ時ノ其處分ト云フモノニ對シテノ制規ト云フモノハ今日マデ缺ケテ居ッタデアリマス、實ハ此特別會計法ヲ明治二十三年ニ制定サル時ハ如何ニシテ今日提出アル所ノ修正案ノ精神ヲデス、網羅シテナカッタラウカト云フコトハ詰リ其節當局者ニ於テハ氣ガ付カナカッタデアリマシタルカ何カ是レガナケレバ此特別法ト云フモノヲ完成シタルコトハ申サレナイノデアリマス、依リマシテ此度此追加法律案ノ出マシタルハ至極尤ナ事デアッテ、此法律トシテ必要缺クベカラザルコトト考ヘラルル故ニ委員會ニ於キマシテハ速ニ全會一致ヲ以チマシテ此追加案ハ可決スベキモノト結了致シマシタルデアリマス、此段御報告ニ及ビマス、

○松本鼎君 本案ハ單簡ナモノデアリマスカラドウカ讀會ヲ省略シテ速ニ……

- 小原重哉君 松本君ニ贊成、
- 山田卓介君 松本君ニ贊成、
- 男爵鹿園實博君 松本君ニ贊成、
- 吉村角次郎君 松本君ニ贊成、
- 渡邊甚吉君 贊成、
- 下鄉傳平君 贊成、
- 瀧口吉良君 贊成、
- 根岸武香君 松本君ニ贊成、
- 梅原修平君 贊成、
- 子爵由利公正君 贊成、
- 武井守正君 贊成、
- 議長(侯爵蜂須賀茂韶君) 松本君ヨリ讀會省略ノ發議ガゴザイマシテ定規ノ贊成ガゴザイマス、之ニ同意ノ諸君ノ起立ヲ請ヒマス、
起立者 多數

○議長(侯爵蜂須賀茂韶君) 三分ノ二以上ト認メマス、
明治二十三年法律第二十五號鎖店銀行紙幣交換基金特別會計法第四條ノ次ニ左ノ一條ヲ追加ス
第五條 本法ハ平穩鎖店ヲ爲シ又ハ營業滿期ニ至リタル國立銀行紙幣交換

基金ノ會計ニモ之ヲ適用ス

○議長(侯爵蜂須賀茂韶君) 他ニ御發議ガナイト存ジマスニ依ッテ表決ニ付シマス、原案ヲ可トスル諸君ノ起立ヲ請ヒマス、

起立者 多數

○議長(侯爵蜂須賀茂韶君) 過半数デゴザイマス、本案ハ即チ可決セラレマシタ、日本銀行課稅法案、衆議院提出、第一讀會ノ續ヲ開キマス、特別委員長報告、

(子爵谷干城君演壇ニ登ル)

○子爵谷干城君 諸君、本案ハ去ル二十八日ニ委員會ヲ開キマシテ直ニ其日結了致シマシテゴザイマス、デ委員會ノ結果大略ヲ御報道致シマス、此法案ニ附キマシテ委員會ニ於キマシテ起リマシタル所ノ議論ハ大別シテ二種ニナツテ居ル、デ總テ此日本銀行ト云フモノハ大ニ組織ヲ異ニシタモノ、總テ國家ノ働ヲサスル目的デ設立シタルモノデアルカラシテハ、ドウモ是レヘ向ケテ課稅ヲスルハ不當デアルト云フ先ヅ大略論ト、サウシテ一ハ如何ニモ日本銀行ノ設立サレタ主意ハ右論者ノ通りデ決シテ單一會社利己的ノ目的デ立テタモノデナイト十分ニ政府ノ機關トシテ働カスル目的デ持ヘタモノデアルニ相違ハナイ、併ナガラ一方カラ見レバ一ノ株主組織ニナツテ居ルト見タトキニハ之ヲドコマデモ課稅スベキモノデナイト斷言スルコトハ出來ナイ、デ若シ此戰後日本ノ財政上ニ必要ヲ生シテ總テ此會社稅、營業稅、所得稅ノ類ハモノニ一層稅ヲ賦課セヌナラヌト云フコトニナツテ來タトキニハ日本銀行ト雖モ普通相當ノ課稅ヲスルコトハ免ルベカラザルモノデアル、併シ今日は是レヘ斯ノ如キ過當ナル稅ヲ課スルト云フコトハ甚ダ其意ヲ得ヌ譯デアル、斯ウ云フ先ヅ大略……大體ヲ摘ンデ申セバ二種ノ論點デアリマス、依ッテ兩論者ノ結局歸著致シマスル所デハ此課稅法案ハ今日ニ於テ決シテ可決スベキモノデナイト否決スベキモノデアルト云フハ全會……全委員一致デ決シマシテゴザイマス、デ此今申シタ所ガ先ヅ大略デゴザイマス、デ是レハ其固ヨリ諸君ニ於カレマシテモ定メテ御同感ノ事トハ存ジマスルケレドモ委員會ニ於キマシテ出マシタ議論ヲ重立ツ様ナ所ヲ取摘ンデ御話ヲ申上ゲテ置キマス、デ抑、此中央銀行ノ成立チマシタ事柄ハ御承知ノゴザイマスル通り明治十六年デゴザイマシタガ彼ノ先達テ延期論ノ起リマシタ時……國立銀行延期論ノ起リマシタトキニ屢々論モゴザイマシタル通り紙幣ノ統一ヲ計リ又不換紙幣ノ弊害ヲ一掃シテ兌換券……不換紙幣ヲ兌換券ニ引換ヘルト云フ其扱ヲサスルニハドウシテモ駄ト信據スベキ鞏固ナル銀行ガナクテハナラヌ、ソコデ是レガ其日本銀行設立ノ一ツノ理由トナツテ居ル、又國庫金ト云フ年々各地

ヨリ取立ツル所ノモノ、是レ等ノ事ノ扱ト云フモノハ役人デ扱ハセタラ宜シサウニアリマスガ、併シ役人デ之ヲ扱フト云フコトニナリマスルト無益ニ國庫ニ積置クト云フ様ナコトニナリマスル、或ハ又此金錢上ノコトデゴザイマスルト中、此一厘一毛ノ差引勘定等ノコト、夫レヲドウモ役人ガスルト云フハ餘程困難ナルコト、詰リ其扱ヒ等ノ事ハ一ツノ技藝ニ屬シテカラニ最モ熟練ヲ要スル事柄デアアル、夫レ故ニ此夥シイ國庫金ヲ扱フニ付テハ逆モ役人デヤツテ十分ニナイノミナラズ役人ニ扱ハスレバ一ツ所ニ堆積シテカラニ夫レヲ十分遊バセナイト云フコトハ出來ナイ、是レニハ鞏固ナル責任アル銀行ヲ設立シテ之ヲシテ其任ニ當ラシムルト云フノガ即チ此設立ノ一ツノ大ナル源因ニナツテ居ル、デ或ハ之ニ反對スル者ハ曰ク夫レハ鞏固ナル銀行ト云ヘバ何ゾ獨リ日本銀行ノミナラム、又大キナ十五銀行ノ如キモノハ非常ニ大キナモノデアアル、斯ウ云フモノニヤラシテ置ケバ夫レデ足ルト云フ論モアルカモ知レマセヌガ、本員杯ガ考ヘルト決シテアール云フモノニ任シテハ行クマイト思フ、ト云フモノハ詰リ其貨幣ヲ始終貨幣デ流通サシテ少シモ遊バセナイ様ニ分配ヲスル必要ヨリ私立銀行ハ起ツタモノデアアル、夫レヲ良シ如何ニ鞏固ダト云ウタ所ガ唯株其他長年期ノ此貸付トシテ懷手デ居ザツテカラニ利ヲ占メルト云フ銀行デハ到底此國家ノ働ヲ委任スルコトハ出來ナイ、斯ウ云フ銀行デ見タトキニハ詰リ唯一ツノ營業ノ固定資本ヲ作ル様ナ理窟ニナツテ銀行ガ唯單ニ其株券公債ノ利デ食ツテ行クト云フコトニナツテ銀行ノ働ハセナイ様ニナル、サウ云フモノニ逆モ國庫金ヲ扱ハセルト云フコトハ出來ルモノデナイト、夫レデ國庫金ノ出入ヲ扱ハセルニハ駄トシタ信用アリ又政府ノ嚴重ナル監督ノ下ニ立ツ所ノ銀行ガナクテハナラヌ、デ即チ是レガ其大ナル目的ノ一ツデアリマス、又單ニ此一ツノ銀行ノ利益ノミヲ目的トシテ立テテ居リマスル銀行デ見マシタトキニハ自分ノ利益ニサヘナレバ他ハ或ハ顧ミヌト云フコトニシマシテモ之ヲ責メルコトハ出來ナイ、ケレドモ茲ニ一ツノ此中央銀行ト云フモノガアツテ是レガ丁度譬ヘテ申セバ身體ノ血液ノ製造場ト云フ様ナ理窟ニナツテ、夫レヨリシテ段々ニ此血液ヲ循環サスル様ニ公平ニ夫レヲ循環サシテ行ク様ニナリマスレバ決シテ其一ト所ヘ貨幣ガ堆積シテ、一方ニ餘ツテ居リ一方ニ缺乏シテ居ルト云フ様ナ憂ガナイ様ニ出來ラル、是レ等ノ事モ即チ此日本銀行ヲシテ單一自己ノ利益ノミナラズ總テ社會ノ金融ヲ圓滑ナラシメル所ノ目的ノ一ツデアアル、又今申ス通り中央銀行ニ於キマシテハ政府ヨリ大ニ責任ヲ負ウテ居リ又政府ヨリ國庫金ノ取扱ヲ命ゼラレテ夫レヲ堆積セヌ様ニ流通サセテ行ク責任ガアルモノデアリマスカラ、隨ツテ各地方ニ各立シテ居ル所ノ小銀行等ニナリマスレバ……地方ノ銀行ノ不和不圓滑ニナツテ居ル様ナモノモ中央銀行ヲシテ責任ニ當ラシメ各々銀行ト銀行

トノ間ヲ圓滑ニシテ行クコトヲ圖ラセルニモ中央銀行ト云フモノハ大ニ與ッテ功ノアル譯デ、詰リ或ハ氣ニ入ラヌ人モアリマスルカ知リマセヌガ中央銀行ト云フモノハ各銀行ノ先ヅ親方ト看做シテ宜カラウ、夫レデ各銀行ノ間ニ立ッテカラニ成ルベク之ヲシテ圓滑ニ運動セシムルト云フノ責任ガアルノデス、斯ノ如クスルナレバ自然ト各地方ニ金モ十分ニ平均シ金利モ甲乙丙トヒドイ不平均ノナイ様ニ出來ルト云フノ見込デ成立ッタモノト見ユルノデアリマス、今日ニ於テ青森宮崎ト云フ様ナ所ノ金利ヲ見テモ非常ニ高クナッテ居ルガ是レ等ハマダ日本銀行ノ十分ニ其責任ヲ盡サヌ所ト本員杯ハ考ヘテ居ル、サウ云フ所ハ彼ヲシテ責任ヲ負ハシメ十分ニ平均ヲ得セシムル様ニシタイト云フ考デアリマス、大約右申シマシタ様ナ理窟デカラニ日本銀行ハ單ニ自己ノ利益ヲ目的トセズ即チ國家ノ利益ヲ目的トシテ立テタモノデアリマスルカラシテハ普通ノ利己的ノ銀行同様ニ見ルコトノ出來ナイト云フコトハ、ドノ論者デモ委員會ニ於キマシテハ異論ハナカッタデアリマス、所ガ此本案ノ主意ハ詰リ之ヲ推シテ考ヘテ見ルト日本銀行ト云フモノハ紙幣發行ノ權ヲ專有シテ居ル甚ダ不埒ナ仕方デアル、是レヘ一ツ保護稅ヲカケテヤレト云フ様ナコトニ聞ユル、唯利ガ多イカラ取ルト云フ様ニ聞ユル、若シサウ云フ様ナ……萬一、事ト見タナラバ甚ダドウモ是レハ不當ナ事ト言ハナケレバナラヌ、夫レ故ニ如何ニ此多少ノ稅ヲカケヌナラヌト云フ論者デ見マシテモ會社稅ト云フモノヲ十分ニ取ルト云フコトニ至ッタ所デ初メテ此日本銀行モ、外竝ニ稅ヲ徵收サセテ宜カラウト云フ考ガアリマスル、ケレドモ紙幣發行ノ權ヲ與ヘラレテ居ルカラ是レヘモテイテ罰金ヲカケテヤレト云フ様ナ精神ハ誠ニドウモ其意ヲ得ヌ事柄デアリマス、詰リ要スルニ本案ハ委員會デ今申シマシタ通り全委員一致ヲ以テ否決シテ然ルベシト云フ考デアリマスルカラ、ドウゾ諸君ニ於カレマシテモ其思召デ否決ニナラムコトヲ希望致シマスル、

〔子爵由利公正君演壇ニ登ル〕

○子爵由利公正君 本員ハ唯今委員長ガ申サレマシタ通り委員ノ一人デアリマシテ矢張り此本案ニハ不同意ヲ致スモノデアリマス、唯今委員長カラ委シク此要領ヲ盡サレマシテ贅言ヲ用フルニ及バヌカト考ヘマスナレドモ、本員ハ此會計ノ起リマシタ頃カラ聊カ國家經濟ノ上ニ就キマシテ歴史ノ關係ガアリマスルカラ本員等ガ記憶シテ居リマスルコトヲ要領ダケヲ一言申上ゲテ置キマスガ必要ト思ヒマスルカラ、聊カ此前來即チ經濟ノ根源ヲ立テラレマシタコトヲ承知シテ居ルダケヲ申サウト思ヒマス、抑維新前ノ經濟ト申スモノハ諸君モ御承知デアラレマセウガ至ッテ僅々タル小サイモノデアリマシテ連モ此百万ノ金ヲ左右スル杯ト云フコトハ舊幕府ノ經濟ト雖モ思寄ラザルコトデアリマス、夫レ故ニ維新ノ當座ニ當リマシテ國家ノ大事件トナリマシタ

ル所ヘ如何ニ人心……精神ヲ盡シマシテモ經濟ノ動キヤウハ一切アリマセヌ、固ヨリ朝廷ニ御金ガ別段貯ヘテアル譯デハゴザイマセヌシ、又天下ノ融通ト云フモノガ至ッテ小サイモノデアリマスカラ金ヲ借りヤウモアリマセヌ、又金ノ出ドコロモ積ンデアル所モドコニモアリマセヌ、夫レ故ニ已ムヲ得ザルニ出マシテ金札ノ發行ガ出來マシタノデアリマス、此金札發行ト云フ時分ニ於キマシテハマダ今日ノ國債ト云フ言葉ノ發明ガゴザイマセヌデ初ニ議事ヲ興サレマシタノガ日本全國ノ人民ノ頭ニ積リマシテ一人前一圓ノ借金ヲスルト云フ積リデアッタ、果シテ三千万ガ始リデ、サウシマシテ其後三千万ヲ以テ……事ガ起リマシタル所、諸藩ノ經濟ガ立行キマセヌ、諸藩ト云フモノガ平常事ナキトキニハ差支モ無カッタガ、起ッテ參リマシテ聊カ事アルト云フト少シモ運轉ヲスルコトガ出來ナイ、夫レデ諸藩ノ上カラ頻ニ此金札發行ノ増加ヲ求メラレマシタ、朝廷ニ於テモ深ク御議シナリマシタ、我々ニ於テモ其初ハ金札發行ノ事ヲ主張致シマシタガ過度ニ發シマシテハ是レガ他日ニ至ッテ、跡ノ取締ヲスルコトガ出來マイト考ヘマスカラ數度ビ反對ヲ致シタノデアリマシタガ、其實際上、其當座ノ結末ヲ付ケルコトガ出來マセヌタメニ又二千万増シテ五千万御造リニナルコトニナリマシタ、其後マダ足ラヌニ附イテ民部省ノ札ガ出マシタ、委シイコトハ申スニ及ビマセヌガ大要ハ右様ナ勢デ已ムヲ得ズ七千万程其時ニ金札ガ出來マシタノデゴザイマス、然ル所平定ニ至リマシタ所デ、ドウカ此國家經濟ノ基礎ト云フモノガ一ツ定マリマセヌトナラヌト云フコトハ我々豫テ心配ヲ致シテ居リマシタガ、殘念ナガラ其跡ノ始末ヲ付ケルコトハ出來マセヌデ、私共病氣ニナリマシテ且又御免ニナリマシテ田舎ニ歸リマシタ、其跡續イテ大藏省ニ於テハ非常ニ心配ヲサレマシタガ容易ニ此不換紙幣ノ跡ヲ取締フコトガ中々容易ニ出來マセヌデ、容易ナラヌ苦心ヲサレマシタノデゴザイマス、既ニ明治七八年ノ頃ニナリマシテハ引換金ハモウ殆ド其趣ヲ改メマシタガ、經濟ノ根本ガ据ラヌト云フコトガ輿論ニナッタ位デ、是レハ皆サン御承知ノコトデ容易ナラヌ心配ヲサレタコトデゴザイマス、夫レカラ後、國立銀行ト云フモノヲ起シテ天下ヲ融通スルコトヲ發明サレマシテ、サウシテ公債證書デ以テ國立銀行デ造ルコトガ出來マシタガ、是レモ亦出來テ見マシタモノノ此公債證書ガ殘ラズ國立銀行ニナッテ各箇ノ札ガ出テ、是レガ國家ノ經濟ヲ全ク案スコトニナリ、是レガタメニ大藏省ニ於テハ餘程心痛サレタモノト見エマス、其時分ニ私ハ掛ッテ居リマセヌカラ知リマセヌガ容易ナラヌ御心配ガアッタコトト見エマス、夫レカラ段々國家經濟ノ事ハ官吏直接ニ金融ノ平均ヲ得サセルコトハ、ドウ苦心ヲシテモ出來マセヌ、又出來得ベキ事柄デ無イ、且又之ヲ統一スルワザニ至リマシテモ經濟上總テ狙ヒヲ取ラナケレバナラヌ、如何ニモ大藏省デ之ヲ

直ニ行レマシタトキニハ手元ニ於テ如何様ナ財源ガアリマセヌデモ他カラ見
タトキニハ何カ都合ノ宜イトキニハ紙幣ヲ造ラシテ都合ノ惡ルイトキニハ隱
シテ居ルカト云フ懸念ガナイデモナイ、或ハ全クナイト云フコトハ保證スル
コトハ出來マセヌ、夫レ故ニ右等ノ筋合モ明ニスルタメニ日本銀行ト云フモ
ノヲ起サレマシテ、サウシテ此政府ノ民間トノ間ニ立ッテ唯今委員長ヨリモ
申サレマシタ金融ノ圓滑ヲ圖ラセ、又兌換銀券ノ發行ヲ許サレマシテ通貨ノ
統一ト云フコトヲ圖ラレテ、サウシテ此大藏省ノ管轄ノ下ニ於テ決シテ私ニ
一ノ營利的ニ運動スルコトハ出來ヌト云フコトニナッテ居ルノデアル、右様
ナ性質ヨリシテ成立ツタモノデゴザイマス故ニ今日ノ日本經濟ノ機關トシテ
誠ニ必要ナ働ヲナシテ居ルモノデ、現在ガ若シ今日ノ征清事件デモ起リマシ
タニナリマシテ此日本銀行ト云フ設ケガ無カリマシタナラバ今日日本ハドウ
デアリマセウカ、隨分是レハ容易ナラヌ經濟上ニ關係ヲ起スコトデアラウト
思ハレマス、然ルニ斯ノ如キ何億萬ト云フ公債ヲ募ラレマスニ當リマシテモ、
人民ノ精神トハ申ス條、如何ニ精神ガ奮ヒマシテモ之ヲ圓滑ニ運轉ヲ付ケ
ルト云フコトノ機關ガアリマセヌナラバ之ニ應ズルコトハ出來ヌ、其機關ト
ナッテ働クト云フ場合ノアレバコソ大藏省モ今日ハ必ズ經濟ノ運轉ニ苦勞ヲ
サレルト申シテモ運轉ガ著イテ行クト云フノハ此機關ガ働イテ行クカラ
デアラウト思フ側カラ私ハ信用ヲシテ居ルノデ、右様ナ場合ニ斯様ナ法案ガ
出テ來ルト申シマスルモノハ畢竟是レハ經濟ノ事ト申スモノハチヨット一通
リノ議論ノ外ニ立ツモノデアリマスルタメニ、一家ノ經濟ハ詳シイ人ト申シ
マシテモ國家經濟ニハサウ詳シクハナイ者ガ多イモノデアリマスルカラ、全
ク我々ガ信ジテ居リマス程大切ナモノト云フコトヲ思ヒマシタ以上ハ今日ノ
場合ニ斯様ナ案ガ出テ來ルモノデハナイト存ジマスナレドモ、知ル人ノ少イ
タメニ斯様ナ案ガ出テ來ルモノト氣付キマシタカラ我々ハ内閣委員ニ此項穿
鑿ヲ致シマシテ一通リ御要領ヲ書イテ貰ヒマシタノハ即チ御手許ヘ差上ゲテ
置キマシタ書付ノ通りデアリマス、右様ナ次第デアリマスカラ願ハクハ諸君
ハ今日ノ景況ヲ御承知ニナルト共ニドウゾ此法案ハ成立チマセヌ様ニ希望致
シマス、聊カ歷史上ノ關係ガアリマス故ニ一言敷衍ヲ致ス譯デアリマス、

(侯爵醍醐忠順君演壇ニ登ル)

○侯爵醍醐忠順君 本員不案内ナル銀行ニ附キマシテ口ヲ開クハ甚ダ如何
デハゴザイマスガ我ガ意見ヲ誠ニ簡短ニ一言申述ベタイ、此課稅ノ多少ノ所
ハ甚ダ不案内、是レハ重過ギルト云フモンカ少イト云フモンカヲコラモ甚ダ
不案内、不案内ナラ默ッテ居タガ宜イ様ナモノデアリマスケレドモ、本員ハ
他ノ銀行ニ課稅ガアッテ此銀行バカリ免稅ニナッテ云フ其一點ダケガド
ウモ此案ニ付キマシテ反對ノ點ヲ能ウ見出シマセヌデゴザイマス、ドウモ尤

ト言ハザルヲ得ヌト思ヒマス様デ、唯其一言デゴザイマス、如何ニモ行政ノ
方デハ國家經濟ノ色々御用ニモ立ッテアル銀行ノ事、特別ノ扱ノアルモ無理
ナラヌ譯、先刻谷君其他ノ御辯明モ誠ニ無理ナラヌ次第デゴザイマスガ本
員ノ考デハ、若シ他ノ銀行ニ課稅ガアッテ國家經濟ノ御用ニハ立ッテハ
言フ條、日本銀行ノミ免稅ニナルト云フ點ガドウモ此議案ヲ無理ト云フ點ヲ
能ウ見出サヌ、夫レ故ニ總テ申スマデモナイ譯デスケレドモ御互輩立法參與
ノ各々ハ總テマア公平平均一ナルコトハドウモ賛成セザルヲ得ヌト斯ウ信ジマ
ス、又此課稅ノ法案ト云フモンハ先刻モ申シマシタ通り色々國家經濟ノ御用
ニハ立ッタルトハ言フモンノ、ドウモ矢張り他ノ銀行ニ課稅ガアルカラハド
ウモ之ニ課稅スルト云フノハ公平平均一ナル法案ト信ジマス故ニ、ドウモ此課
稅ノ法案ハ本員等ノ賛成セザルヲ得ヌ譯、唯公平一般ヲ以テドウモ反對ハシ
難イト云フ一點デゴザイマス、本員ハ此案ニ賛成ヲ致シマス、唯其一言……

(政府委員田尻稻次郎君演壇ニ登ル)

○政府委員(田尻稻次郎君) 唯今醍醐侯爵ノ御心配ノ廉ハ誠ニ御尤ナ事デ
アリマスルガ私ヨリ一言申上ゲテ置キマシタ方ガ御安心ニモナラウト思ヒマ
スルカラチヨット申上ゲテ置キマス、成ル程國立銀行ニハ御承知ノ通り發行
紙幣ノ千分ノ七ノ稅ガ課シテアリマシテ日本銀行ニハ發行稅ト云フモノハ唯
今課シテナイデス、併ナガラ其代リニ御承知ノ通り段々先輩諸君カラモ御話
ノアリマシタ通りニ此紙幣償還ノトキニ二千二百萬ト云フ金ヲバ無利子デ國
庫ニ立換ヘテアルトカ何トカ云フ國家的ノ働ガ致シテアリマスルシ、其他又
國庫金ノ取扱ト云フモノヲ……大抵五十萬カラシテ六十萬バカリ入リマ
ス、大方五十七萬圓バカリ入ルノヲバ、夫レヲバ段々低減致シマシテ、二十
三年カラ起リマシテ低減致シマシテ唯今デハ四十萬ヤリマシテ、サウシテ三
十年ニナリマスルト最早一文モヤラズニ國庫金ノ取扱ヲタダスルト云フコト
デ、間接ニハ大變重イ稅ガ課シテアルト云フ結果ニナッテ居マスルカラ、強
チ直接ニ課稅ト云フモノガナイト云ウテモ夫レダケノコトハ金錢上シテ居ル
ト云フコトニナリマスルカラ、強テ其點ニ附イテ不公平ハナイト存ジマスル
カラ一言申上ゲテ置キマス、

○議長(侯爵蜂須賀茂韶君) 別ニ御發言ガゴザイマセネバ第二讀會ヲ開ク

ヤ否ヤノ決ヲ採リマス、本案第二讀會ヲ開クベシトスル諸君ノ起立ヲ請ヒマ

起立者 少數

○議長(侯爵蜂須賀茂韶君) 少數デゴザイマス、依ッテ本案ハ二讀會ヲ開ク
ベカラズ、廢案ニ決シマス、次ニ日本銀行條例中改正法律案、衆議院提出、
第一讀會ノ續ヲ開キマス、特別委員長報告、谷子爵、

(子爵谷干城君演壇ニ登ル)

○子爵谷干城君 本案ハ御承知ノ通り唯今否決ニナリマシタ案ト聯帶シテ成立ツノデアリマス、既ニアレガ否決ニナツタ以上ハ無論否決スベキモノト存シマス、一應御報告致シマス、

○議長(侯爵蜂須賀茂韶君) 表決ニ付シマス、本案第二讀會ヲ開クベシトスル諸君ノ起立ヲ請ヒマス、

起立者ナシ

○議長(侯爵蜂須賀茂韶君)

起立者ゴザイマセヌ、即チ本案モ廢案ニ決シマス、

○子爵小笠原壽長君

本員ハ緊急動議ヲ提出致シマス、少シク其理由ヲ簡短ニ述ベマセウト思ヒマス、其動議ト申シマスモノハ議事日程ヲ變更シテ政府提出ノ通貨及證券模造取締法案ノ第一讀會ヲ開クト云フ動議デゴザイマス、其理由ハ此度提出ニナリマシタ通貨及證券模造取締法案ハ諸君モ御承知ノ如ク第五議會ニ於キマシテハ紙幣模造取締法案ト云フ名目デ政府ヨリ提出ニナリマシテ、其案ハ貴族院ヲ通過致シマシテ衆議院ニ回リ、同院ノ委員會モ決議ニナリマシテ愈々明日ノ議事日程ニ上ラウト云フ前日ニ衆議院ガ解散ニナリマシタタメニ議決ニ至ラズシテ今日マデ其儘ニナツテ居リマス、然ルニ近來ニ至リマシテハ益々模造紙幣ノ跋扈スルニ至リマス、ノミナラズ、

既ニ公債證書マデモ模造スルニ至ツテ居リマス、故ニ良民ノ害ヲ被リマスルコトガ非常ニ多クナリマシタケレドモ、然レドモ其取締ノ法ガゴザイマセヌカラドウスルコトモ出來マセヌノデゴザイマス、其上過日政府委員モ申サレマシタル通り近來ニ至リマシテハ模造紙幣ガ外國即チ朝鮮國ニモ參ル様ニナツテ參リマシタ、然ルニ諸君モ御承知ノ如ク一昨日朝鮮國ヘ三百万圓貸與スルコトヲ議決ニナリマシタニ附キマシテハ兌換紙幣ニテ朝鮮國ヘ貸與ニナリマス趣デゴザイマスカラ、左様ニナリマスルト益々模造紙幣ガ朝鮮國ヘ參リマスルコトデアラウト本員ハ考ヘマス、サウナリマスルト日本人民サヘ模造紙幣ハ知ラズ識ラズ受取りマスルコトデゴザリマスルカラ朝鮮人ハ猶更容易ニ模造紙幣ト云フコトハ見分ケガ付キマス、サウナリマスルト日本ノ信用上ニモ餘程關係ヲ及ボスコトデアラウト本員ハ考ヘマス、故ニ政府ニ於テハ一日モ速ニ取締ル法案ヲ發布ヲシテ十分ノ取締ヲシタイト云フコトデアリマス、本員モ此事ハ一時モ忽ニスベキモノデナイト考ヘマス、依ッテ議事日程ヲ變更致シマシテ其取締法案ヲ議シタイト云フコトデアリマス、ドウゾ滿場諸君ニ於テモ御賛成アリマシテ此緊急動議ガ議場ニ成立チマスコトヲ希望致シマス、

○子爵谷干城君

誠ニ必要ナル動議ト思ヒマスカラ賛成ヲ致シマス、

○子爵岡部長職君

賛成、

○男爵伊達宗敦君

議事日程ヲ變更シテ第四ノ前ニ之ヲ入レヤウト云フ緊急動議ガ提出ニナリマシタ、サウシテ其理由トシテ御述ニナツタ所ヲ承ツタガ是レハ何モ通貨及證券模造取締法案ノ理由ト云フモノデ其別段緊急動議ノ御趣意ニハ承ラナカッタ、ナゼ此議事日程ガ濟ンデ其後トヘ追加シテハ往ケナイノデアリマス、ドウシテ此第四ノ前ニ緊急動議トシテ御載ニナラネバナラヌ必要ガアリマス、夫レハ他ニ御趣意ガアルコトト思ヒマスガ承リタイ、

○子爵小笠原壽長君

他ニ別段趣意ハナイ、一日モ早ク議決シテ一日モ早ク政府ガ發表ニナルコトヲ希望致シマスカラ一時モ早ク議シタイト云フ考デアリマス、

○子爵由利公正君

賛成、

○千阪高雅君

賛成、

○小原重哉君

賛成、

○下鄉傳平君

賛成、

○子爵竹内惟忠君

賛成、

○子爵唐橋在世君

賛成、

○男爵伊達宗敦君

唯今質問ヲ致シタコトニ附イテ……

○議長(侯爵蜂須賀茂韶君)

伊達男爵、マダ發言ヲ與ヘテ居リマセヌ、外ニマダ發言スルモノガアリマスカラ……

○子爵立花種恭君

賛成、

(「賛成賛成」ト呼ブ者アリ)

○男爵伊達宗敦君

私モ賛成シヤウト思ッテ理由ヲ簡單ニ述ベマス、唯今長々ト議事日程第四ノ前ニ之ヲ載セテ議サウト云フ緊急動議デ又明瞭ナル最モ理由アルコトヲ御述ニナリマシタ、私モ之ニ賛成ラシマス、其譯ハ最早他ニ餘リ議案モアルマイト思ヒマス、今日議シテ仕舞ヘバ明日ヨリハ必ズ休ミニナルデアラウト思ヒマス、故ニ之ニ賛成シマス、

○議長(侯爵蜂須賀茂韶君)

小笠原子爵ノ議事日程ヲ變更シテ通貨及證券模造取締法案ノ第一讀會ノ續ヲ直ニ開クト云フ此動議ニ賛成ノ諸君ノ起立ヲ請ヒマス、

起立者 多數

○議長(侯爵蜂須賀茂韶君)

過半數デゴザイマス、依ッテ議事日程ハ變更ニナリマシテ、通貨及證券模造取締法案ノ第一讀會ノ續ヲ開キマス、特別委員長報告、

〔侯爵中御門經明君演壇ニ登ル〕

○侯爵中御門經明君 此通貨及證券模造取締法案ノ委員會ノ經過及結果ノ御報告ニ及ビマス、此案ハ既ニ昨年五月本院ニ於キマシテ可決セラレマシタル所ノ紙幣模造取締法案ト文字ニハ少々相違ガ出來テ居リマスルケレドモ其取締法ノ精神ニ於テハ毫モ異リマセヌノデゴザイマシテ、委員會ニ於キマシテハ此法案ノ必要ナルコトハ全會一致ヲ以テ可決セラレマシテゴザイマス、夫レカラ此第一條ニ掲ゲテゴザイマス所ノ紙幣兌換券模造ノ如キニ至リマシテハ政府委員ヨリ參考ノタメニ此實物ヲ委員會ヘ提出致サレマシテゴザイマス、夫レハ餘程澤山ナ種類デゴザイマス、其中ニモチヨット眞ノ紙幣若クハ兌換券ト竝ベマシテモ尙ホ模造タルコトガ一見シテハ分リ惡クイ位善ク出來タノガゴザイマスル様ナ譯デアリマシテ、中ニ細カイ字ヲ能ク讀ンデ見マシト或ハ此玩弄券ハ子供ニ貸與スルコトヲ得ルトカ、若クハ子供ニ於テ大人シク遊ベトカ云フ様ナコトガ書イテアリマスケレドモ、文字ヲ一々讀ミマセヌ限リハ一見眞僞ガ分ラヌ位ニ出來テ居ルノガ澤山ゴザイマス、此事ハ既ニ昨年本院ノ會議ニ上リマシタ時分ニ委シク御承知ニナツテ居ル通りデゴザイマスルガ、此度此第一條ニ國債證券及地方債證券ト云フモノガ加ハリマシテゴザイマス、此地方債證券ト云フコトニ附イテハ未ダ模造シタト云フコトハ發見セラレヌ趣デアリマスルガ、國債證券即チ公債證券ニ至リマシテハ既ニ模造ガ出來テ居リマシテ、是レモ委員會ヘ政府カラ提出サレテ參考ノタメニ示サレマシテゴザイマス、夫レハ百圓ノ公債デアリマシタガ如何ニモ是レモ模造デアアルカト云フコトハ説明ニ依ツテ承知スル位ニ能ク出來テ居リマス、斯ウ申シマスルコト然ラバ模造デナクシテ偽造デアリサウナモノデアルト云フ疑モアルカモ知レマセヌガ夫レハ餘程巧ニ出來テ居リマシテ、例ヘバ中ニ本人トゴザイマス所ガ本人ト書キ、或ハ裏ノ横文字ハ大字ノ所ハ悉ク倒サマニ入レテアル、細字ノ所ハ露西亞文字デ何ガ書イテアリマスルカ一向洋學者モ讀メヌ様ナモノガ澤山竝ベテアルト云フニ過ギナイ拵ヘ方デアリマス、或ハ又篆書デ書イテアリマス所ノ大日本政府杯ト云フ所ハ政府ト云フ字ガ大變畫ヲ多クシテ、形ハ能ク似テ居リマスルガ九デナイ字ガ載セテアルト云フ様ナコトデアリマシテ、全ク子供ノ玩弄物ニ拵ヘタト云フ様ナ譯ニ出來テアルノデアリマス、夫レ故ニ右等ノ物ヲ以テマシテ國民ヲ欺キマスルコト云フコトニ至リマシテハ隨分甚シイ社會ニ害ヲ及ボスト云フコトハ申スマデモナイコトデアラウト思ヒマス、然ルニ唯今申上デマスル通り刑法ニ在ル所ノ偽造トカ變造トカ云フコトニハ當該ラヌモノデアリマスカラ、之ヲ取締リマスルニハ是非此法案ガナクテハナラヌト云フコトハ最モ見易イ話デアラウト思ヒマス、夫レ故ニ委員會ニ於キマシテハ此第一條ニ掲ゲテゴザイマスル所ハ總テ最モ

必要ナモノト決定致シマシタノデアリマス、夫レデ第二條ニ於キマシテハ別段委員會デハ議論モゴザイマセナシ、此三條ニ至リマシテ斯ク修正ヲ致シマシタノハ是レハ修正案ハ既ニ各員ノ御手元ヘ回ツテ居ル答デアリマス、此三條ニ「第一條ニ掲ゲタル物件ハ」ト云フ字ノ下ヲ抜キマシテ「刑法ニ依リ沒收スル場合ノ外」ト云フ十三字ヲ加ヘマシタノデアリマス、此理由ハ原案ニ依リマスル「第一條ニ掲ゲタル物件ハ何人ノ所有ヲ問ハス警察官ニ於テ之ヲ破毀スルコトヲ得」トアリマスノデ、破毀スルコトガ出來ルト云フコトニナルト夫レハシテモ宜シ、シナクテモ宜イト云フコトニナルデ甚ダ嚴重ナル取締ノ法案ノ上ニ於テ如何ナル精神デアアルカト云フコトヲ政府委員ニ承リマシタ所ガ、此「得」ト云フ文字ヲ用ヒタノハ本案ノ第二條ニ於テ罰セラレル時分ニハ、即チ裁判所ニ於テ之ヲ處分スルノデ、裁判所デ處分スル時分ニハ刑法ノ總則ニ依ツテ無論沒收サレルノデアアル、又其他之ヲ詐僞取財其他ノ犯罪ノ用ニ供シタル時分モ亦裁判所ニ於テ刑法上ニ於テ無論沒收サレルノデアアル、夫レ等ヲ破毀スルハ不都合デアアルカラ夫レハ訓令ヲ以テ夫レ破毀ニ附イテハ訓令ヲ下スモノデアアル、夫レデ若シ裁判所ニ於テ證據ニ供ヘ若クハ裁判所ニ於テ沒收セラレルベキモノナレバ巡査ガ……警察官ガ破毀スルコトハ決シテサセヌノデアアル、斯ウ云フコトデアツテ夫レ等ハ破毀スルコトハ出來ナイ、其他ハ皆破毀スルノデアアル、斯ウ云フ答辯デゴザイマス、如何ニモサウナクテハナラヌコトト委員會ニ於テハ認メマシタノデアリマス、サウナクテハナラヌト云フ以上ハ右等ノ事ハ訓令デ種々ニ面倒ヲスルヨリモ此法律ノ上ニ於テ明ニ刑法上ニ於テ沒收スベキモノハ破毀スルコトハ出來ナイ、其他ノモノハ悉ク破毀スルコト云フコトニ決定シタナラバ政府ノ此本案ヲ出サレタ趣意ガ貫徹スルデアラウト斯ウ云フ所カラ致シマシテ「刑法ニ依リ沒收スル場合ノ外ハ總テ之ヲ破毀スヘシ」ト、得ルト云フコトヲ廢メマシテ必ズ破毀シテ仕舞フ斯ウ云フコトニ本條ヲ修正致シマシタ譯デアリマス、此第四條ニ於キマシテハ既ニ是レハ昨年本院ニ於キマシテ本院ノ委員會デ加ヘマシタ條デゴザイマシテ諸君モ御承知デ別段此度モ委員會ニ於テ第四條ニ附イテハ議論モゴザイマセヌ、右様ナ譯デゴザイマスルデモウ既ニ昨年本院デ大多數ヲ以テ可決セラレタル法案ト一向異ナツタ所ハゴザイマセヌデ速ニ可決アラムコトヲ希望致シマス、

〔政府委員添田壽一君演壇ニ登ル〕

○政府委員(添田壽一君) 此法案ノ第三條ノ御修正ハ政府ノ提出案ノ意味ヲ明瞭ニ致サレタノデアルト認メマスカラ謹シテ同意ヲ表シテ置キマス、故ニ成ルベク速ニ議了セラレムコトヲ希望致シマス、

○名村泰藏君 議長チヨット政府委員ニ……

○議長(侯爵須賀茂韶君) 名村君、

○名村泰藏君 此原案ノ第一條ニ製造シ又ハ販賣スルコトヲ得ズトアリマスガ此製造シ又ハ販賣スル、是レハマア販賣スルニハ廉ク賣ル、是レハ模造紙幣トカ何トカ云ツテ賣ルト云フコトニナルデアラウト思フ、ソコヲ禁メルト云フコトハ固ヨリ御同意デアアルガ、其夫レヲ買ウテ即チ偽造紙幣デ云ヘバ使用スルト云フ様ナ場合ガ時トシテアルカモ知レナイ、其時ニハ如何ノ處分ニナリマスカ夫レヲ云フコト……

○政府委員(添田壽一君) 御答ヲ致シマス、其場合ニ於キマシテハ仲買人デゴザリマスレバ矢張り販賣ノ罪ニ處セラレマス、然ラズシテ唯夫レヲ行使致シマスレバ詐欺取財ヲ以テ罰シマス積リデゴザリマス、

○名村泰藏君 マーッ、詐欺取財ヲ以テ處罰スルト云フコトハ是レマデ裁判所デモ色々ニ相成ツテ居リマシテ、或ハ詐欺取財ヲ以テ罰シタコトモアリ或ハ罰セザルコトモアル、其邊ハ擬律上ノ一ノ疑問ニナツテ居ル點デゴザリマス、若シサウ云フ御趣意デアアルナラバ其箇條ヲ茲ニ加ヘタ方ガ宜イト思フ、夫レカラ第二條ニ前條ニ違犯シタル者ハ一年以上三年以下ノ重禁錮ニ處シ云云トアル、其權衡ハ何ヲ標準ニ取ラレマシタコトデゴザリマス、其邊ヲ云フコト……

○政府委員(添田壽一君) 御答ヲ致シマス、此裁判ノ區々ニナツテ居リマスコトハ是レハ司法官ノ獨立ヲ尊ブ以上ハ如何トモスルコトハ出來マセヌガ、先ヅ私ノ解釋デハ無論詐欺取財ヲ以テ罰セラレルコトト存ジマスノデ此ニ掲ゲテナイノデゴザイマス、夫レカラ第二條ノ刑ノ定メ方デゴザリマスガ、是レハ極其正確ナル割出方デハゴザリマセヌガ、先ヅ詐欺取財ヨリハ輕カラズ通貨偽造罪ヨリハ重カラズト云フ邊デ、マア茲ラガ宜カラウト存ジマシテ斯クナツテ居リマス譯デゴザリマス、

○馬屋原彰君 本員モ政府委員ニ一ツ質問スルコトガゴザリマス、此第三條ノ場合デゴザリマスルガ警察官ニ於テ之ヲ破毀スル……破毀スベシトナリマシタガ、此破毀スベシト直リマシタノハ此破毀ト云フコトハデス、文字ノ通り即チ之ヲ破リ毀ハスト云フコトデスガ、此即チ三條ニ掲ゲテアル所ノ物件ハ法律上ノ即チ禁制品ニナルノデゴザイマス、シテ見ルト是レハ無論刑法ノ上デハ宣告シテ沒收スルモノデアアル、又其他ノ法律ニ於キマシテモ無論是レハ禁制品デアレバ取上ゲルト思ハレマスガ茲ニ破毀トナツテ居ルノハ何カ……ソコヲ云フコト御答辯ヲ願ヒタイ、

○政府委員(添田壽一君) 御答ヲ致シマス、是レハ製造販賣ヲ禁ゼラレテ居リマスガ大體ニ於テ禁制品ト云フコトハ少シク困難デアラウト存ジマス、即チ製造販賣ノ所爲ハ禁ゼラレテ居リマスガ此物其物ハ禁制品デアルト云

フコトハ少シク言憎クカラウカト存ジマス、夫レカラ破毀ト致シマシタル理由ハ沒收ト云フコトハ餘程是レハ大權デアッテ人民ノ財產權ヲ全然奪フコトデゴザリマススカラ左様ナ大權ヲ警察官ニ與ヘズトモ破毀ト云フコトニシテ即チ再ビ行使スル憂ヲ絶ツコトサヘ出來レバ國家ノ目的ハ達スル譯デゴザリマスカラシテ、沒收ヨリハ破毀ト致シタ方ガ財產權ヲ保護スルコトニナリマスカラ破毀ト致シマシタ譯デゴザイマス、

○名村泰藏君 マーッ、甚ダ御面倒デゴザイマスガ、今模造紙幣ヲ私ハ知ラズシテ居リマシテ、取ツテ見タ所ガ模造紙幣デアッテ、夫レヲ默マツテ使用シタト云フ場合ガ又生ズルコトモアラウト思ヒマスガ、其時ハドウ云フ御處分ニナリマス、矢張り詐欺取財ヲ以テ處分スルト云フ御意見デアアルカ一應……

○政府委員(添田壽一君) 御答ヲ致シマス、私ハ未ダ此裁判所ノ經驗ハゴザリマセヌ、且又司法官トシテノ事ハ極暗ウゴザリマスルガ故ニ臆トハ存ジマセヌガ、全ク知ラズシテ善意ヲ以テ使ヒマシタ場合ハ詐欺取財ト云フコトハ出來ナカラウカト存ジマス、ソコハ裁判官ノ鑑定ニ全任致シマスルノ外ナイト存ジマス、

○馬屋原彰君 先刻ノ御答辯ハ能ク分リマシテゴザリマスガ御面倒ナガラモウ一應御尋致シタイ、此三條ノ特別委員ニ於キマシテ修正ニナツタ所ハ政府ニ於キマシテモ全ク御異存ハナイト云フ御説明デアリマシタガ、抑此第三條ノ一體法文ノ精神ト云フモノハ本員ガ考ヘマスルニハ唯此第一條ニ掲ゲテアル所ノ物件ノ取扱方ヲ示スノガ此法文ノ精神デアラウト思フノデゴザイマス、ト申シマスルモノハ此度此特別委員ニ於キマシテ修正ニナツタ上カラ少シ疑ヲ起シテ居リマス、此原案ノ文章デアリマスレバ破毀スルコトヲ得ト書イテアル、是レハ即チ此條ト云フモノハ警察官ニ對シテ直ニ此命令のニ立ツ法文デナクシテ此物件ノ取扱方ヲ示シタモノデアアルカラ矢張り之ヲ得ト云フコトニシテアルノガ普通ノ例文デ却ッテ其方ガ宜カラウカト云フ疑ガアル、然ルニ此修正ニ附イテハ全ク御同意デアルト云フコトデスガ、此精神ハ物件ノ取扱上デナクシテ主トシテ警察官ニ向ッテ之ヲ破毀シロト云フ命令のノ趣意デ此第三條ハ成立ッテ居ルノカ、ソコヲ承リタイ、

○政府委員(添田壽一君) 御答ヲ致シマス、是レハ決シテ直接ニ取扱ヲ定メル條デハゴザイマセヌ、即チ斯ノ如キ公益ニ害アルモノヲシテ再ビ世上ニ害ヲナサシメザル趣意ノモノデゴザリマス、或ハ此法律デ實ハ持ッテ居ルモノマデモ罰シタイト云フ氣味モゴザイマスケレドモ、御承知ノ通り所謂オモチャト俗ニ稱スルモノデ、罪ノナイ子供ヤ老人ガ持ッテ居マセヌトモ限リマセヌ、故ニ夫レヲ持ッテ居ルコトヲ罪トスルコトハ甚ダ酷ニ類シマスル、故ニ成

ルベク跡ヲ絶シタイト云フ所カラシテ破毀ト致シマシタノデゴザリマス、夫レテ御了解ヲ願ヒタイ、

○馬屋原彰君 少シ本員ガ御尋シタ趣意ガ能ク御分リニナラヌデアラウト思ヒマスカラ今一應……本員ノ御尋致シマシタノハ今度ノ委員會ニ於キマシテ「スルコトヲ得」トアルノヲ「スヘシ」ト直シタニ附イテ疑ヲ生ジタノデアリマス、ト云フモノハ是レハ他ノ法律ニ比ベテ見ルト凡テ官廳ナリ警察官ニ對シテ直接ニ何ミズベシト云フコトハ極少イ、例ヘバ近ク本院ニ於テ決議ニナリマシタ質屋取締法案ト云フモノノ内ニモ多クゴザリマス、即チ贓物ノ取扱犯罪ノ嫌疑アル物品ト云フモノヲ取引シタルコトガアル場合ハ即チ警察官ニ對シテ、ベシト云ハズシテ得トシテアルト云フモノハ直接ニ命令シナイ、原案ノ墨書ノ通り丁度ソコニ當ッテ居ル、然ルニ其殊更ニスベシトナッタカラシテサウスルト第三條ノ元ノ精神ト少シ違ガ出テ來ル様ニナラウト思フ、ソコデ此第三條ノ精神ヲ御尋スルノデゴザリマス分リマシタカ……

○政府委員(添田壽一君) 御答ヲ試ミマス、スルコトヲ得ト云フダケノ御論デゴザリマスレバ即チ法律ガ夫レダケノ權能ヲ與ヘタノデゴザリマス、スベシト云フコトハ法律ガ命令ヲスルノデアアル、結局同一事ト認メマシテ同意ヲ致シマシタ、

○名村泰藏君 餘リクドウゴザリマスルガチヨット政府委員ニ……唯今問ヒマシタ模造紙幣ヲ知ラズシテ取ッテ夫レヲ使ッタトキハドウナサルト問ヒマシタトキ、裁判所ノ鑑定ニ依ッテ詐欺取財トスルコトモアル、又シナイコトモアルト云フ、斯ウ云フ御答デアッテ見ルト甚ダ不安心ナ法律ト云ハナケレバナラス、故ニ裁判官ノ鑑定ニ依ッテ詐欺取財ヲ以テ罰スル又ハ詐欺取財トサレヌト云フコトハ甚ダ不權衡デアラウト思フ、既ニ刑法ノ百九十三條ニ偽造紙幣或ハ變造貨幣ヲ受取ッテ、夫レヲ受取ッテ後ニ知リツツ使用シタル所ノモノハ罰金ニ處セラレ、然ルニ此模造紙幣ヲ取ッテ夫レヲ知ラズ識ラズ受取ッテ夫レヲ知ッテ模造紙幣ナルコトヲ知ッテ使ッタトキニハ或ハ詐欺取財トナリ或ハ無罪トナル、サウ云フ不權衡ノコトデハ我々ハ大變コハイコトト考ヘマスガ、其邊ハドンナモノデアリマスカ一應承リタイ、

○政府委員(添田壽一君) 最前私ノ申上ゲマシタコトガ、言葉ガ足ラナカッタカ少シク行違ガアル様ニ存シマス、模造紙幣ヲ受取ッテ夫レヲ知ラズシテ行使シタル場合ニ於テハ或ハ詐欺取財ニナルマイト云フコトヲ最前ハ申上ゲタ積リデゴザリマス、若シ模造紙幣タルコトヲ知ッテ行使シマシタナラバ公明正大ナル裁判官ハ必ズ詐欺取財ヲ以テ罰セラルコトト信ジマス、

○政府委員(松岡康毅君) チヨット一言申述ベテ置キマスルノハ唯今名村君ノ御尋ニ依ルト此法案ガ甚ダ不完全ナモノデ不權衡ナモノデアルト云フ様

ナ御疑問ガゴザリマシタガ、夫レハ受取ッテ後ニ惡意デ使ッタトカ或ハ其行使シタト云フ事柄モ或ハ利益ヲ得タノカ、此行使ノ仕様ニモ依リマセウシ、何レサウ云フ事柄ハ皆活キタ事實ノ上ノ裁判デゴザリマスガ、茲ハ模造物ノ取締ヲ主トシテアルノデゴザリマス、色々變化シテ行使ヲスル上ニ變化シタ其事實ノ裁判ヲスルコト云フコトハ裁判官ニ任スノデゴザリマス、此法ノ上ニ不權衡ダノ粗漏ダノト云フコトハ決シテナイ積リデアリマス、

○名村泰藏君 サウ致シマス刑罰法ノ百九十三條ハ是レハ知ッテ使ヒマシタ時、知ラズシテ取ッテ知ッテ使ヒマシタ其時ニハ「貨幣ヲ收受スルノ後ニ於テ偽造又ハ變造ナルコトヲ知リ之ヲ行使シタル者ハ其價格ニ倍ノ罰金ニ處ス、但其罰金ハ二圓以下ニ降スコトヲ得ス」ト斯ウ定メテアル、是レハ私ガ他カラ釣ヲ取ッテ來タ、其釣ト云フモノハ五拾錢ノ變造或ハ偽造ノ紙幣デアッタト云フコトハ知ラナカッタ、ケレドモ取ッテ後ニ夫レヲ知ッテ私ガ矢張り五十錢ニ使ッタト云フ時ニ、即チ此刑法ニ依ッテ見ルト二圓ノ罰金ニ處セララル、若シ夫レガ二圓デアッタナラバ即チ二倍デアラルカラ四圓ノ罰金ニ處セララルト云フコトガ定メテ居ル、偽造シタリ變造シタル紙幣貨幣デスラ罰金ニ止マル位ノモノデアラルノニ、模造デアッタモノガ取ッテ後ニ模造ト云フコトヲ知ッテ使フ、夫レガ裁判官ノ目ガネニ依ッテ或ハ詐欺取財ニナルトカ或ハ夫レガ無罪ニナルトカ云フコトガアッテハ私ハ實ニ不權衡極マルト思フ、

○政府委員(松岡康毅君) 少シモ不權衡デモナケレバ不都合デモナイ、サウ云フコトハ裁判官ノ即チ活キタ裁判デ、法律ニ成文ガナイカラ無罪ダト云フコトハナイ、或ハ使ヒ様ト言ヒマスレバ模造紙幣デ無クモ反古紙モ使ヒ様ニ依ッテ詐欺ノ手段ナリ方法ナリガ具ッタナラバ詐欺取財ダト言ヘマセウシ、決シテサウ云フモノガ茲ニ何モ書イデナイカラ起ルト云フノデハナイノデゴザリマスカラ、裁判ノ上デドウ云フモノガ有ルカ無イカト云フコトハ茲ニハ何ノ關係モナイコトト思ヒマス、

○議長(侯爵須賀茂韶君) 時刻ニナリマシタニ依ッテ休憩致シマス、午後零時二十分休憩

午後一時二十八分開議

○議長(侯爵須賀茂韶君) 本日午前可決ニナリマシタル政府提出明治二十三年法律第二十五號中追加法律案ハ内閣總理大臣ヲ經由シテ裁可ヲ奏請シ及可決ノ旨ヲ衆議院ニ通知致シマシテゴザリマス、本日衆議院提出日本銀行課稅法案ヲ否決シタル旨衆議院ニ通知致シマシテゴザリマス、本日公露近衛篤磨君ヨリ三十名ノ賛成ヲ以テ日英新條約ニ關スル質問書ヲ提出セラレマシタニ依ッテ政府ニ轉送致シマシテゴザリマス、

○公爵近衛篤磨君 議長、

○議長(侯爵蜂須賀茂韶君) 唯今少シ申落シマシタカラ補テ置キマスガ、

日本銀行課稅法案及日本銀行條例中改正法律案、此二ツヲ否決シタル旨ヲ衆議院ニ通知致シタノデゴザイマス、

○公爵近衛篤磨君 議長、質問ノ理由ヲ述ベタウゴザイマスガ宜シウゴザイマス、

○議長(侯爵蜂須賀茂韶君) 宜シウゴザイマス、

(左ノ質問書ハ朗讀ヲ經ザルモ參照ノタメ茲ニ載録ス)

日英新條約ニ關スル質問主意書

一本條約第十一條ハ沿海貿易ニ關スル條章ニシテ其第一項ハ沿海貿易ノ制限トシ第二項ハ輸入船舶二港已上連航ノ事ヲ規定セルモノトス然ルニ第三項但シ書ニハ「本條約ノ期限間是迄ノ通り大不列顛國船舶カ帝國ノ現開港場ニ積荷ヲ運搬スルコトヲ許スコトヲ承諾ス」トアリ然ラハ第三項但書ハ第一項第二項規定ノ效力ヲ抹殺セシ者ニシテ沿海貿易ノ規定ハ現條約ト異ナル無キ結果ヲ生セスヤ此ノ如ク實行ノ意ナキ條件ヲ前項ニ規定シ更ニ末項ヲ以テ之ヲ取消シタルハ如何ナル理由ニ出ツル哉

且ツ本條約第三項中「現開港場間ニ積荷ヲ運搬ス」トハ海外仕出シ港ニ於テ積載セル貨物ノミヲ謂フヤ將タ帝國開港場ノ一ニ於テ積載シ他ノ一港ニ於テ船舶卸スヘキ貨物ノ運搬ヲモ包含スル哉

一本條約第十八條ニ本條約實施ニ至ラバ外國人居留地ハ我カ市區ニ編入セラレテ地方組織ノ一部ト爲ルヘク尤從來ノ永代借地券ハ有效ノモノト確認セラレ其借地券ニ載セタル條件ノ外ニ何等ノ條件ヲモ附セサルヘシト規定セリ

今ノ居留地果シテ市區ニ編入セラレテ地方組織ノ一部ト爲レル已上ハ自ラ地方稅ヲ負擔セサルヘカラス然ルニ地方稅中地租割ノ如キ市稅地租附加ノ如キ特別稅地租割ノ如キハ都テ借地人ニ賦課スヘカラスハ當然ナリトス然ルトキハ政府ハ地主ノ資格ヲ以テ該地方稅ヲ國庫ヨリ支出スヘキ見込ナリ哉

本條約第三項ニ外國人居留地公共ノ目的ヲ變セサル限り永代無稅ニテ保存セラルヘキモ土地收用權ニハ從フヘシト規定セシモ第二項外國人一箇人ニ貸與セシ土地ニ就キテハ其條件ヲ規定セス然ラハ反テ外國人一箇人ノ借地ニハ土地收用權ヲ施行シ得サルモノト認ムルノ外ナシ是レ何等ノ理由ニ出ル哉

一本條約第十九條ノ規定ヲ審按スルニ印度外十一箇所ノ英領及其殖民地ニ此條約ヲ適用セストアリ

然ラハ此ノ印度外十一箇所在籍ノ英人ハ追テ新タニ條約ヲ結フマテハ我國ニ對シテ無條約國人タルヘキヤ將タ本條約ノ規定ニ從ヒ我帝國ニ渡來シ内地何レノ所ニモ居住シ自由ニ輸出入貿易業ヲ始メ其他ノ商業ニ從事スルヲ得ルコト英本國ノ臣民ト異ナル所ナキ哉

又我帝國ノ臣民ハ前項ニ反シ該十二箇所ノ英領地内ニ於テ本條約ノ規定ニ據リテ業務ニ從事スルコトヲ得サルモノナリ哉

又本條約第二條ニ於テハ兩締盟國ノ一方ノ臣民ニシテ他ノ一方ノ版圖内ニ住居スル者ハ陸海軍護國軍等ニ論ナク總テ強迫兵役ヲ免除セラレ且服役ノ代償タルヘキ一切ノ納金ヲ免カレ又一切ノ強募公債及軍事上ノ賦斂捐資ヲ免カルヘシト相互平等ニ規定セラレシニ「キムバーレー」伯ハ本條約調印ト同日ノ公文ヲ以テ英國ノ或ル殖民地及領地カ本條約第二條ニ記載シタル兵役ニ關スル規定ニ從ハサル條件ヲ以テ本條約ニ加入スヘキコトヲ請求シ青木公使ハ之ヲ承諾シタリ是ニ由リテ我カ臣民ハ印度外十一箇所ノ英領地内ニ渡航シ業務ヲ營ムニハ其地ノ兵役ニ服セサルヘカラス

兵役代償ノ納金ヲ拂ハサルヘカラス軍事上ノ課稅捐資強募公債ニ應セサルヘカラスサルカ之ニ反シテ我國内ニ渡航シ業務ヲ營ム印度外十一箇所ノ英領地ノ英國國民ハ此等ノ義務ニ服スルコトナカルヘキ哉

英領地ノ海關稅率ハ各領地自主ノ制定ニシテ英本國ノ稅率ト等ニ非サルナリ故ニ我カ貿易ヲ英領地ニ輸入センニハ各其地方ノ稅率(濠洲諸港現稅率ハ原價ニ對シ多キハ六割少キモ二割)ニ從ヒ課稅セラレサルヘカラス之ニ反シテ各英領地ノ貨物ハ本條約ノ規定ニ從ヒ議定書附屬稅目ニ由リテ我國ニ輸入スルノ便宜ヲ得ヘキヤ又ハ此條約外トシテ我國定稅率ヲ以テ課稅スヘキ哉

一本條約第二十一條ニ據レハ本條約實施ノ通知ハ調印ノ日ヨリ四箇年ヲ經タル後何時ニテモ爲スコトヲ得ヘシトアリテ我カ實施通知ノ權ニ於テ毫モ拘束セラル、所ナシ然ルニ本條約調印ト同年月日ニ青木公使ヨリ英國キムバーレー伯ニ致セル公文ニハ日本各法典ノ實施ニ至ルマテ本條約實施ノ通知ヲ爲サル旨ヲ確約シテ本條約ニ規定セル通知權ヲ拘束シタリ即チ我

天皇陛下ノ御批准アラセラルヘキ條約正文ヲ一片ノ公文ヲ以テ更定シタルモノニアラス哉

一稅率ノ制定及ヒ變更ハ帝國議會ノ協贊ヲ經サルヘカラスルコト憲法第六十二條ニ明定スル所ニ係ル然ルニ青木公使及キムバーレー伯ノ記名調印セル議定ノ附屬稅目ハ帝國議會ノ協贊ヲ經スシテ某品目ノ從價稅率ヲ變更セリ是レ憲法ノ正條ニ相反スルモノニアラス哉

一本條約中ノ正文ニ係ラス海關稅率、法典實施、英國殖民地及領地ニ關スル規定ノ如キ總シテ議定書又ハ公文ヲ以テ本條約當然ノ作用ヲ拘束シテ其大要領ノ實ヲ失ヒ反テ同年月日ニ發シタル議定書及公文ニ實效ヲ有スルコトニナリタルハ何等ノ理由ニ出ツル哉

將本條約ト全然表裏セル議定書公文ヲ果シテ率由スヘキ者トスル哉
右議院法第四十八條ニ依リ政府ニ對シ及質問候也
明治二十八年三月二日

質問者 公爵 近衛 篤磨
贊成者 公爵 二條 基弘
外二十九名

〔公爵近衛篤磨君演壇ニ登ル〕

○公爵近衛篤磨君 諸君、軍國多事ノ今日ニ當リマシテ軍國ノ事ニ關係ノナイ問題ヲ持出シテ内閣ノ諸公ヲ煩ハスト云フコトハ甚ダ忍ビナイコトデアリマス、併ナガラ今回ノ戰爭ハ益々其結果ヲ奏シマシテ戰フ毎ニ必ズ勝チ攻ムル毎ニ必ズ取ルト云フノ有様デゴザイマス、此有様デ往ツタナレバ戰爭ノ終局ノ後ニ於テハ日本ノ地位ハ如何ナル處マデ高マルデアラウカ、又諸外國ハ必ズ我國ヲ見ルニ於テ決シテ從前ノ通りノ眼ヲ以テ見ナイデアラウト云フコトハ想像ガ出來ルノデアアル、果シテ我國ガ地歩ヲ進メルモノトシタナレバ又、之ニ對スルダケノ我國ノ責任ト云フモノガ夫レダケ重クナルト云フコトハ覺悟ヲシナケレバナラヌト思フ、シテ見タナレバ將來ニ日本ガ夫レダケノ地歩ヲ進メルモノトシタナラバ今日ヨリシテ苟モ我國ノ國權ノ消長ニ關係スルコトデアルナレバ十分ニ攷究シテ置クト云フコトハ決シテ是レハ徒勞デナカラウト思フ、其國權ニ關スル事柄デ其最モ大ナルモノハ何デアアルカト云フタナレバ即チ條約ノ事デアアル、夫レガ今日此戰爭ノ最中デアルニモ拘ラズ此問題ヲ持出シテ政府ニ質問スル次第デアリマス、我國ノ條約改正ニ從事シマシタノハ彼ノ故岩倉大使ガ歐米諸國ヲ巡迴セラレタキニ始ツテ今日ニ至ルマデ數回ニ及ビマシタ、併ナガラ未ダ一度モ其效ヲ奏シタコトハナイノデ、或ハ先方ノ不同意ニ依ツテ廢棄ニナツタコトモアリ、或ハ國民ノ輿論ガ之ヲ攻撃シタガタメニ終ニ無效ニ歸シタコトモアル、夫レ故ニ今日マデノ條約改正ノ談判ノ沿革ヲ見タナレバ實ニ失敗ノ歴史デアルト云フコトハ爭ハレヌ事實デアルト思フ、然ルニ昨年七月十六日ヲ以テ我が全權公使ノ青木子爵、英國ノ外務大臣キムバール伯トノ記名調印シタル所ノ通商航海條約云フモノハ即チ同年八月二十七日ヲ以テ御批准ニナツテ居リマス、其當時此新條約ガ世ノ中ニ現レルト同時ニ實ニ立派ナ對等ノ條約ガ出來タト云フモノハ世ノ中ニ歡迎セラレ

タケレドモ尙ホ其條約ノ正文ト云フモノヲ熟讀玩味スルト云フト或ハ其箇條ノ中ニ衝突スル様ナ矛盾スル様ナ箇條ガナイトモ言ハレズ、或ハ本條約ノ明文ト云フモノヲ議定書又ハ公文ヲ以テ打消シタ様ナ姿ニナルト云フコトモ、此條約ヲ見タ人ハ必ズ心付カレルデアラウト思フノデス、是レハ實ニ我が國權ノ消長ニ大ナル關係ヲ有スルモノデアアルガ故ニ政府ノ考ノアル所ヲ確メテ尙ホ將來ニ大イニ攷究シヤウト云フ考デアアルノデス、デ今少シク疑ノ存スル所ヲ舉ゲタナレバ殆ド箇條毎ニ疑ヲ存シナケレバナラヌト云フ嫌ガアルノデス、併ナガラ夫レハ甚ダ煩ハシイコトデ小サナ問題ヲ敢テ責ムルニモ及ブマイト思フ、夫レ故ニ今此ノ所デハ其煩ヲ避ケテ只主要ノ二三點ヲ質問シヤウト思フノデアリマス、本條約中ニ就キマシテ最も主要ナル點ハ何デアアルカト云フタナレバ先ツ沿海貿易權ノ事デアアル、居留地制度ノ事デアアル、海關稅率ノ事デアアル、又法典ノ條件ノ事ノ如キデアアル、其他ニモアリマセウケレドモ先ツ是レ等ノ事柄ヲ我々ハ最モ研究シテ置キタイト思フノデス、夫レデ此質問趣意書ニ書イテアリマスル事柄ヲ順次ニ説明致サウト存ジマス、先ツ始ニ此沿海貿易ノ事ニ就イテ聊カ述べヤウト思ヒマスガ、我國ノ如キ海國ニ於キマシテハ航海事業ノ發達ヲ圖ラナケレバナラヌト云フコトハ是レハ申スマデモナイコトデアアル、況ヤ又此戰後ニ於テ東洋ノ航海權ヲ握ラナケレバナラヌ、サウデナイトキニハ二億餘萬圓ノ軍費ヲ費シ幾多ノ生命ヲ犧牲ニ供シテ此日本ガ名譽ナル勝利ヲ得ナガラ其結果モ半バ其效ヲ失ツテ仕舞フデアラウト思フ、我が政府ハ必ズ大イニ航海業ノ發達ヲ圖ラネバナラヌ又圖ララルデアラウト云フコトハ私ノ信ジテ疑ハヌ所デアリマス、然ルニ此日英條約ノ規定スル所ニ就イテ見マスルトドウ云フコトガアルカ、本條約ノ第十一條「兩締盟國ノ沿海貿易ハ本條約ニ於テ規定スルノ限ニ在ラス各其法律、勅令及規則ニ從ヒ之ヲ規定スヘキモノトス、然レトモ日本國皇帝陛下ノ版圖内ニ於ケル大不列顛國臣民又ハ大不列顛國皇帝陛下ノ版圖内ニ於ケル日本國臣民ハ此事項ニ關シテハ各右法律勅令及規則ヲ以テ他ノ外國臣民或ハ人民ニ許與シ若ハ許與セラルヘキ諸權利ヲ享有スヘキモノトス」斯ウ云フコトガ第一項ニアリマス、デ第十項ハ沿海貿易ニ制限ガ附ケテアル、第二項ニ於キマシテハ「大不列顛國皇帝陛下ノ版圖内ノ二箇以上ノ港ヘ仕向ケタル荷物ヲ外國ニ於テ積載シタル日本國船舶及日本國皇帝陛下ノ版圖内ノ二箇以上ノ港ヘ仕向ケタル荷物ヲ外國ニ於テ積載シタル大不列顛國船舶ハ外國貿易ヲ許サレタル仕向ケタル荷一ニ於テ其ノ積荷ノ一部ヲ陸揚シ而シテ其ノ最初ニ積載シタル荷物ノ剩餘ヲ陸揚スル爲メ他ノ一港若ハ數港ヘ進航スルコトヲ得ヘシ但シ常ニ兩國ノ法律及稅關規則ニ從フヘキモノトス」斯ウ云フコトガアリマシテ、是レハ輸入船舶ガ二ツ以上ノ港ヲ連航スルコトニ就イテノ規定デアリマス、夫レデ是レダ

ケデアレバ誠ニ立派デアル、然ルニ其第三項ノ但書ニハドウ云フコトガアリ
マスカト云フト「但シ日本國政府ハ本條約ノ期限間是迄ノ通り大不列顛國船
舶カ帝國ノ現開港場間ニ積荷ヲ運搬スルコトヲ許スコトヲ承諾ス尤大阪新
潟及ヒ夷港ハ此ノ限ニ在ラス」殆ド此第三項ノ但書デ以テ前ノ二項ハ抹殺シ
テ仕舞ツタ様ナモノト見エルノデアリマス、デ此ノ如キ條約ヲ承諾セラレタ
ト云フモノハ如何ナル理由デアルカ、沿海貿易ノ事ハ最モ能ク將來ニ於テ注
意シナケレバナラヌ所ノコトデアアル、然ルニ其事柄ヲ立派ニ前ノ二項ニ於テ
掲ゲテ置キナガラ第三項ノ但書ヲ以テ消滅ニ歸セシムルト云フコトハドウ云
フ理窟デアアルノカ、夫レデモ更ニ差支ナイト云フ御見込デアアルカト云フコト
ヲ伺ヒタイ、是レガ先ヅ一ノ問デアリマス、且ツ此條ノ第三項中ニ「現開港
場間ニ積荷ヲ運搬ス」ト云フコトガアリマス、是レハ海外仕出港ニ於テ積載
スル所ノ貨物ノミヲ言フノデアアルカ、將タ又帝國開港場ノ一ノ港ニ於テ積載
セル他ノ港ニ於テ船卸スル貨物ノ運搬ヲモ意味スルノデアアルカ、夫レ等モ一
ツ伺ヒタイト云フ條項ノ一デアアル、此沿海貿易ノ事ハドゴノ國デモ隨分喧マ
シイ制限ヲ立テテ居リマシテ、英國ノ如ク總テ自由主義ヲ執ッテ居ル様ナ國
デアリマシテモ尙ホ彼ノ航海律ト云フモノガアツテ、既ニ此三四十年前マデ
行ッテ、居ッタト云フ位ナコトデアアル、況ヤ我國ノ如クマダ鎖國ノ夢ノ醒メ
テカラ後僅ニ二三十年シカ過ぎナイ位ノ國デアツテ、殊ニ海國デアリナガラ
航海ノ事ニ關イ國ニ在ッテハ尙更注意スベキコトデアアルト思フニモ拘ラズ、
此條約ニハ此ノ如キ規程ノアルト云フコトハ甚ダ不審ニ堪ヘヌデアリマス
カラ此一箇條ヲ先ヅ第一ニ伺ヒタイノデアリマス、夫レカラ其次ニアリマス
ノハ居留地ノ事デアリマス、是レハ本條約ノ十八條、第十八條ニハ「大不列
顛國政府ハ同政府ニ關スル限ハ左ノ取極ニ同意スヘシ、日本國ニ在ル各外國
人居留地ハ全ク其ノ所在ノ日本國市區ニ編入シ爾後日本國地方組織ノ一部ト
ナルヘシ」斯ウ云フコトデアリマシテ、居留地制度ト云フモノハ全ク是レデ廢
スルト云フコトニ外觀上ナッテ居ル、サウシテ其是レマデノ居留地ト云フモノ
ハ日本ノ市ノ中ニ組入レルト云フコトニナッテ居ル、是レハ誠ニ結構デアリマ
スガ、併ナガラ從來カラ永代借地券ト云フモノガアリマシテ、夫レハ矢張り有
效ノモノト確認セラレテ、其借地券ニ載セタル條件ノ外ハ總テ何等ノ條件ヲ
モ附セサルベシ、ト此中ニ書イテアル、然ラバ此今ノ居留地ト云フモノガ果シ
テ市區ニ編入サレテ地方組織ノ一部トナツタ以上自カラ地方稅ノ負擔ト云フ
モノガナケレバナラヌ、然ルニ地方稅ノ中デ地租割ノ如キ、市稅地租附加ノ如
キ、特別稅地租割ノ如キ、總テ借地人ニ賦課スルコトガ出來ナイモノニナル、
所ガ其借主ハ外國人デアアル、地主ハ誰レカト云ヘバ政府デアアル、シタナラバ其
地主ノ資格ヲ以テ其地方ノ借地料ト云フモノハ政府ガ負擔スルノデアアルデア

ラウカ、是レガ先ヅ質問ノ一ツノ箇條デアリマス、夫レカラ其次ハ此箇條ノ第
三項「外國人居留地公共ノ目的ノ爲メ無借料ニテ既ニ貸與シタル各地所ハ永
代ニ保存セラレヘシ且該地所ニシテ最初貸與シタルトキノ目的ニ使用セラ
ル限ハ總テノ租稅及徵收金ヲ免スヘシ但シ土地收用權ニハ從フヘキモノトス」
斯ウ云フコトガアル、夫レデ此箇條ハ居留地ノ中公共ノ目的ノ爲メニ貸與シ
テアル所ノ地所ハ其目的ヲ變ヘナイ、例ヘバ公園デアレバ何時マデモ公園デ
置ク限リハ永代無代貸シテ置ク、併ナガラ土地收用權ニハ從ハナケレバナ
ラヌ、若シモ其公園ノ内ニ鐵道線路ヲ敷クトカ或ハテ志ヨンヲ置クトカ
云フ場合ニハ夫レハ土地收用權ノ作用ニ從ハナケレバナラヌト云フコトガア
リマス、併ナガラ特ニ土地收用權ニ從ハナケレバナラヌト云フコトガ出テア
ルケレドモ外國人一個人ノ借りテ居ル所ニ附イテハ何モナイ、シテ見レバ外
國人一個人ノ借りテ居ル即チ公共ノコトデアリ所ノ地所ニハ土地收用權ハ施
行スルコトガ出來ナイト云フコトヲ規定シタ様ニ解釋ガ出來ルノデアリマ
ス、其邊ハドウ云フモノデアアルカ、夫レモ質問ノ一ツ、マ一居留地制度ノ事ハ
先ヅ其位ニシテ置キマシテ其次ニ本條約第十九條「本條約ノ規定ハ法律ノ許
ス限ハ大不列顛國皇帝陛下ノ殖民地並ニ其ノ海外領地ニ適用スヘシ但シ左
列記スル所ハ此限ニ在ラス印度加奈太領地ニユ一、フワウンドランド、喜望峯
殖民地」云々、サウシマスルト云フト此條約ト云フモノハ法律ノ許ス限リハ
英國ノ殖民地ニハ成ルベク適用スルコトガ出來ル、併ナガラ是ノ所ハナラ
ヌト云フ箇條ガ十二箇條アリマス、殆ド英國ノ殖民地ノ重ナルモノ、主要ナ
ルモノハ大抵此中ニ網羅シテアル、サウシテ見ルト此條約ハ英吉利本國バ
カリニハ適用スルケレドモ其外ノ殖民地ニハ適用スルコトガ出來ナイ結果ニ
ナル様ニ見エマス、若シモ夫レガ事實デアラナラバ是レ等ノ印度以下十一箇
所ト云フ所ノモノハ矢張り英國國民デアアルニハ違ヒナイガ夫レ等ノ人トハ更ニ
日本ハ特別ノ條約デモ結バナケレバ無條約國ノ人間ト見ナケレバナラヌノデ
アル、ドウモサウヨリ解釋ハ出來ナイノデアリマス、其邊ヲ伺ヒタイ、夫レ
カラ本條約ノ規定ニ從ウテ我が帝國ニ渡來シ内地何レノ所ニモ居住シ自由ニ
輸出入貿易等ヲ始め其他ノ商業ニ從事スルコトヲ得ルコトガ英國本國ノ臣民
ト異ナルコトハナイノデアアル、サウスルト云フト少シ權衡ヲ失フ様ニ見エ
ルノデアリマス、若シモ印度其外十一箇條ノ人民ガ日本ニ來テ商業ヲ營ミ或ハ
各種ノ業ニ從事スルコトガ出來ルト見タナラバ若シモ日本人ガ印度ナリ其外
ノニ往ッテ十分夫レダケノ權利ヲ得ルコトガ出來ヌト云フ場合ガアツタナラ
バ是レハ頗ル平等ヲ缺クモノト謂ハナケレバナラヌ、所ガ十九條ノ規定デ見
ルトドウモサウ云フ嫌ガアル様ニ思ハル、又本條約ノ第二條ニ「兩締盟國
ノ一方ノ臣民ニシテ他ノ一方ノ版圖内ニ住居スル者ハ陸軍、海軍、護國軍、民

兵等ニ論ナク總テ強迫兵役ヲ免カレ且其ノ服役ノ代リトシテ取立ル所ノ一切ノ納金ヲ免カレ又一切ノ強募公債及軍事上ノ賦歛或捐資ヲ免カルヘシ」斯ウ云フコトガアリマスガ、是レハ勿論英國ノ本國ト日本トノ間ニ在ッテ對等條約デアッテ相互ノ間ニハ此通り規定サレテアルカラ少シモ差支ナイ様ニアリマス、併ナガラ此本條約ト共ニ同一ニ調印サレタ所ノ公文ガアリマスガ、其公文ニハ英國ノ或ル殖民地及領地ガ本條約第二條ニ記載シタル兵役ニ關スル規定ニ從ハザル條件ヲ以テ本條約ニ加入スベキコトヲ請求シ青木公使ハ之ニ承諾ヲ與ヘテ居ル、之ニ依ッテ見ルト我國ノ臣民ハ印度其外十一箇所ノ殖民地ニ往ッタ時分ニハ矢張り其兵役ニモ服サナケレバナラヌト云フ様ナ結果ガ出テ來ルノデアリマス、又其外強迫兵役ハ勿論ノ話軍事上ノ事或ハ其外ノ負擔ハ總テ印度其外ノ殖民地ノ人民ト同ジ様ニ負擔ヲシナケレバナラヌト云フ様ナ疑ガ此本文ニ依ッテ見ルト生ジテ來ルノデアリマス、其邊ハ如何ナモノデアリマスガ、又英吉利領地ノ海關稅率ト云フモノハ各領地ハ皆自主ノ制度デアッテ英本國ノ稅率トハ皆異ナッテ居ルノデアアル、デ我國ノ品物ヲ英吉利ノ領地或ハ印度デアルトカ或ハ其外ノ加奈太喜望峯デアルトカ云フアタリヘ持ッテ往ッタ時分ニハ其土地ノ稅率ニ從ハナケレバナラヌ、之ニ反シテ英領地ノ貨物ハ英本國ノ品物ト同ジ様ニ日本ヘ持ッテ來テ日本デハ此間規定サレタ議定書中ニ在ル稅率ヲ以テ賦課サル、ト云フコトデアッテハ是レ又頗ル不權衡ノ至ト思フノデアリマス、シタナラバ是レ等ノ諸國ニハ更ニ又一定ノ稅率ト云フモノヲ以テ課稅スベキデアアルカ如何デアアルカ、夫レカラ其次ニ於キマシテハ本條約ノ第二十一條ニ於テ「本條約ハ調印ノ日ヨリ少クモ五箇年後迄ハ實施セラレサルモノトス而シテ日本帝國政府ニ於テ本條約ヲ實施セント欲スル旨ヲ大不列顛國政府ニ通知シタル後一箇年ヲ經ルニ非サレハ實施セラレサルモノトス」尤此ノ通知ハ調印ノ日ヨリ四箇年ヲ經タル後何時ニデモ爲スコトヲ得ヘシ又本條約ハ其ノ實施ノ日ヨリ十二箇年間效力ヲ有スルモノトス」斯ウ云フノデアリマス、然ルニ本條約ト同一ニ調印ヲセラレタ所ノ青木公使トミミバ「伯トガ調印サレタ公文ハ日本各法典ノ實施ニ至ルマデハ本條約實施ノ通知ヲナサザル旨ヲ約ス、斯ウ云フコトガアルノデ、シテ見ルト云フト從來法典ト云フコトハ始終條約ノ條件ノ一ツニナッテ居ッタノガ今度條約ノ正文バカリヲ見ルト更ニサウ云フ條件ハナイケレドモ矢張り此公文ヲ見マス」其條件ガ附イデ居ルモノト思ハル、ノデアリマス、所ガ天皇陛下ノ御批准ニナッタ所ノ條約ノ正文ト云フモノヲ僅ニ夫レニ附帶スル所ノ公文ヲ以テ之ヲ更訂シタト云フノハ……改メタ様ナ姿ノアルハ是レハドゥ云フモノデアアルカ、是レモ一ツノ質問ノ箇條デアリマス、夫レカラ又稅率制定及變更ノ事ハ總テ帝國議會ノ協贊ヲ經ナケレバナラヌト云フコトハ憲法ノ

示ス所デアアル、然ルニ此議定書ヲ御覽ナサレバ分ルガ青木公使トミミバ「伯トノ記名調印シタル議定書ノ附屬稅目ヲ以テ帝國議會ノ協贊ヲ經ズシテ直ニ定メテ仕舞ッタ、是レハ若シヤ憲法ノ正條ニ反シテ居ルモノデハナイカ、是レモ質問ノ一ツ、本條約ノ正文ニ拘ラズ海關稅率又ハ法典實施英國殖民地及領地ニ關スル規定ノ如キハ總テ議定書或ハ公文ヲ以テ本條約ニ規定スル所ノモノヲ拘束シテ仕舞ッテ夫レガタメニ本條約ノ要領ヲ失ッテ却ッテ其同ジ時ニ發布シタ所ノ公文ト議定書ト云フモノヲ以テ取消シタガタメニ其本條約デナイ所ノ議定書ト公文ト云フモノガ實效ヲ奏スル様ニナッテ來タ、夫レハドウ云フ譯デアアルカ、何ガ故ニ本條約ニ規定シタ所ノモノヲ公文又ハ議定書ヲ以テ夫レヲ拘束シ或ハ變更シタノデアアルカ、先ヅ私ノ質問シタイト云フ所ハ其位デアリマス、尙ホ其外ノ箇條ハ幾ラモアリマセウケレドモ此位ノ事ガ大眼目ト思ハルルカラ政府ニ於テハドウカ詳細ニ……勿論此事ハ政府ノ樞機ニ屬スル様ナコトデ言フコトノ出來ヌ様ナコトガアルカモ知レマセヌ、ケレドモ差支ナイ限ハ御示アラムコトヲ希望スルノデアリマス、之ヲ以テ此質問書ヲ提出致シマシタ理由ト致シマス、

○議長(侯爵蜂須賀茂韶君) 午前ノ會議ヲ繼續致シマス、……別ニ御發言ガゴザイマセネバ第二讀會ヲ開クベキヤ否ヤノ決ヲ採リマス、本案第二讀會ヲ開クベシトスル諸君ノ起立ヲ請ヒマス、

起立者 多數

○議長(侯爵蜂須賀茂韶君) 過半數デゴザイマス、

○子爵小笠原壽長君 議事日程ヲ變更シテ直ニ第二讀會ヲ開クト云フ動議ヲ提出致シマス、

(「贊成」ト呼ブ者アリ)

○柴原和君 本員ハ考ヘマスルニ唯今議事日程變更ノ說モ出マシタナレドモ是レハ則チ午前ノ會ニ段々此隣席ノ名村君カラ質問モゴザイマシテ、其實問ノ主意ヲ考ヘマスルト政府委員ノ答モゴザイマシタナレドモ其答ハ或ハ要領ヲ得ヌコトガアラウト思ヒマス、又二讀會ニ於キマシテ修正シタイコトモアラウト考ヘマス、又已ニ此第三條ニ警察官ニ於テ之ヲ破毀スルコトヲ得トアルノヲ破毀スベシトシテアリマス、是レモ本員等ハ元ノ黒イ字ノ方ガ宜イト云フ考デアリマス、ドウカ是レハ定規ノ日數ヲ與ヘテ第二讀會ヲ開カレムコトヲ希望致シマス、唯今ノ議事日程ヲ變更スルコトニハ不同意デゴザイマス、

○子爵立花種恭君 小笠原子爵ノ動議ニ贊成致シマス、

○子爵竹内惟忠君 小笠原君ニ贊成、

○子爵榎村正直君 小笠原子爵ニ同意ヲ致シマス、

○子爵谷干城君 小笠原子爵ノ動議ニ贊成致シマス、

○議長(侯爵蜂須賀茂韶君) 議事日程ヲ變更シテ直ニ第二讀會ヲ開クト云
フ小笠原子爵ノ動議ニ賛成ノ諸君ノ起立ヲ請ヒマス、

起立者 多數

○議長(侯爵蜂須賀茂韶君) 過半数デゴザイマス、直ニ第二讀會ヲ開キマ
ス、第一條第二條ヲ問題ニ供シマス、朗讀ヲ致サセマス、

(山本書記官朗讀)

通貨及證券模造取締法

第一條 貨幣、政府發行紙幣、銀行紙幣、兌換銀行券、國債證券及地方債證券

ニ紛ハシキ外觀ヲ有スルモノヲ製造シ又ハ販賣スルコトヲ得ス

第二條 前條ニ違犯シタル者ハ一月以上三年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上

五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

○議長(侯爵蜂須賀茂韶君) 第一條第二條、原案ヲ可トスル諸君ノ起立ヲ
請ヒマス、

起立者 多數

○議長(侯爵蜂須賀茂韶君) 過半数デゴザイマス、第三條、

(山本書記官朗讀)

第三條 第一條ニ掲ケタル物件ハ何人ノ所有ヲ問ハス警察官ニ於テ之ヲ破

毀スルコトヲ得

(山本書記官「委員會ノ修正ニハ『第一條ニ掲ケタル物件ハ刑法ニ依

リ沒收スル場合ノ外何人ノ所有ヲ問ハス警察官ニ於テ之ヲ破毀ス

ヘシ』トナツテ居リマス」ト述ブ)

○議長(侯爵蜂須賀茂韶君) 別ニ御發言ガナケレバ決ヲ採リマス、第三條、

委員ノ修正ヲ可トスル諸君ノ起立ヲ請ヒマス、

起立者 多數

○議長(侯爵蜂須賀茂韶君) 過半数ト認メマス、第四條、

(山本書記官朗讀)

第四條 第一條ニ掲ケタル物件ニハ明治九年布告第五十七號ヲ適用ス

○議長(侯爵蜂須賀茂韶君) 第四條、原案ヲ可トスル諸君ノ起立ヲ請ヒマ

ス、

起立者 多數

○議長(侯爵蜂須賀茂韶君) 過半数デゴザイマス、

○子爵小笠原壽長君 議事日程ヲ變更シテ直ニ第三讀會ヲ開クト云フ動議

ヲ提出致シマス、

○侯爵中御門經明君 賛成、

○下鄉傳平君 賛成、

○男爵檜村正直君 賛成、

○子爵立花種恭君 賛成、

○子爵日野西光善君 賛成、

○關田可通君 賛成、

○男爵榎取素彦君 賛成、

○渡邊甚吉君 賛成、

○議長(侯爵蜂須賀茂韶君) 議事日程ヲ變更シテ直ニ第三讀會ヲ開クト云

フ小笠原子爵ノ動議ニ賛成ノ諸君ノ起立ヲ請ヒマス、

起立者 多數

○議長(侯爵蜂須賀茂韶君) 過半数デゴザイマス、直ニ第三讀會ヲ開キマ

ス、朗讀ヲ省キマス、

○議長(侯爵蜂須賀茂韶君) 原案ヲ可トスル諸君ノ起立ヲ請ヒマス、

起立者 多數

○議長(侯爵蜂須賀茂韶君) 過半数デゴザイマス、次ニ明治二十三年法律

第七十三號貯蓄銀行條例中改正法律案、衆議院提出、第一讀會ノ續ヲ開キマ

ス、特別委員長報告、

(子爵林友幸君演壇ニ登ル)

○子爵林友幸君 御報道申シマス、明治二十三年法律第七十三號貯蓄銀行

條例第三條第四條第五條第六條ヲ左ノ通り改正スト云フ是レガ本文デゴザイ

マス、是レハ本員共ニ託サレマシテ兩度程委員會ヲ開キマシタ、其委員會ノ

次第ヲ御報道申シマスルニハ此貯蓄銀行條例ガ定マリマシテ今日改マルノヲ

見マスルト餘程區域ガ狹ウゴザイマシテ遂ニ銀行……貯蓄銀行社會ノ事業ガ

中々行レ兼ネル様ナ形デゴザイマス、折角法律ガ出來テ居ルモノノ其業務ノ

發達ガ鈍ウナリマシテ大ニ其困ツテ居ル所カラシテ少シク之ヲ寬ニシテ業務

ヲ手廣ウ致サウト云フコトニ止マリマス、其寬ニシタノハ第一ニ第四條ノ貯

蓄銀行ノ拂戻ノ保證トシテ資本金ノ……資本金額ノ半數ノ金額ヲ利付國債證

券其他ヲ以テ供託所ニ預ケテ置ク次第デアッタサウデゴザイマス、夫レヲ今

度四分ノ一ト致シマスカラ夫レヲ又半分ニシテアリマススカラチヨット少イ形

デゴザイマス、然レドモ此少イ形ハ此所デハ緩メマスガ其先キノ六條ニ至リ

マシテ大ニ又ソコヲ押ヘル所ガゴザイマス、期限六箇月以内ニシテ現金ノ預

リ高ヲ以テ夫レヲ押ヘ夫レニ應ズル四分ノ一ヲ又供託所ニ預ケルト云フ譯

デ、前ノ方デハ緩メテ先キノ方デ押ヘルト云フノデアルカラ其取締法ハ大藏

省ニ於キマシテ之ヲ以テ存分ニ出來ル形デゴザイマス、種々茲ニハ疑問モゴザイマシテ内閣委員トモ屢々承リ合セマシタ所ガ格別ノ差ツドイモナイ、先ヅ斯ウ云フ所ニ致シテ置イタ方ガ宜カラウト……併シ又之ヲコツチノ申シマスルノニハ然レバ此位ノコトニナツタ良イ方法ドモガアツテ法律等デモ又近日ニ提出デモセラレレ御心組ガアルカナイカト云フコトモ尋ネマシタガ、未ダ其事ハゴザイマセヌガ先ヅ之ヲ以テヤレバ格別差支モアルマイカラ此儘ニシテ置カウト云フコトデゴザイマス、夫レデ此案シノ出マス所ハ末ノ項ノ爲換手形約束手形ニ限ルベシ……貯蓄銀行ハ國債證券及地方債ノ證券ヲ之ヲ置クノデゴザイマスガ、夫レニハ少シ案シガゴザイマシタガ、是レハ其確實ナモノデナケレバ固ヨリ取ラヌ、地方債證券ト云フトモ限ニ拵ヘサシタモノデハナイ譯デ、地方長官ガ承知ヲシテ尙又其村ノ見積リヲシ、殊ニ知事ヨリシテ内務大臣ニ、内務大臣ヨリシテ大藏大臣ヲ經由シテ、孰モ確實ト見ル所ヲ以テ許シテアルモノデゴザイマス、之ヲ以テ株券ヨリモ薄イ……手薄イコトモアルマイト云フ斯ウ云フコトニナリマシテ、委員一統ハ全會一致ヲ以テ此案ヲ其儘ニシテ通過致シタイト云フコトニ決議致シマシテゴザイマス、ドウゾ御同感ノ御方ハ御賛成ヲ希フ所デゴザイマス、

○男爵小松行正君 御論モナイ様デゴザイマスカラ、又簡單ナ案デゴザイマスカラ讀會省略ヲ致シタイト思ヒマス、

○久保田讓君 チョット質問ヲ致シマス、第四條ノ貯蓄拂戻ノ保證トシテ地方債券ヲ備ヘ置クト云フ今度ノ改正デアリマスルガ、此地方債券ニハ餘程體ナモノモアツテ、即チ東京府ノ公債デアルトカ或ハ大阪ノ府債トカ云フ様ナモノハ殆ド國債證券ト同様ノ位ノモノデアラウト存ジマスルガ、中ニハ極貧乏ナ小イ町村杯ノ地方債モアラウカト考ヘラレルデアリマスガ、此地方債券ノ中ニハ隨分危險ナモノモアルヤニ承ツテ居リマスガ、其邊ハ政府デハ御取調ニナツテ地方債券デ一向危險ナコトハナイト云フ御考デゴザイマスカ、一應承リマスル、

○政府委員(添田壽一君) 御答ヲ致シマスデゴザイマスガ、御承知ノ通りニ此地方債ト申シマスルモノハ各自治團體ニ關係シテ居リマスル法律ニ依ッテ始メテ發行スルモノデアリマシテ、即チ府縣郡區町村水利組合杯ガ永久ノ利益ト爲ルベキ事業等ノ支出ノタメニ起ス所ノ負債トシテ生ジマスルモノデアリマシテ、其愈々世上ニ募リマスル前ニハ内務大藏兩大臣ノ嚴重ナル調査監督ヲ經ルモノデゴザイマスカラ、今仰セラレマシタ如ク國債證券ニモ讓ラヌモノモアル位デ、其他將來市町村アタリカラ出スモノノ中ニモ全ク確實ナモノバカリト云フコトハ言ヘナイカモ知レマセヌガ、併シ先ヅ今日ノ市町村制等ニ依ッテ出シマスルモノデゴザイマスレバ即チ市町村ノ收稅權ト云フモ

ノノ擔保モアリマスル故ニ先ヅ懸念ハナイコトト存ジマス、

○久保田讓君 モウ一ツ伺ヒマス、地方債券ハ悉ク内務大藏兩大臣ノ許可ヲ得テデナカラネバ出來ヌト云フ様デアリマシタガ併シ市町村制ニ依リマスレバ左様デモナイカト本員ハ確トハ覺エマセヌガサウ考ヘテ居リマス、慥カ三箇年以内ニ償還ノモノハ内務大藏兩大臣ノ許可ヲ得ズシテ地方債券ヲ發行スルコトガ出來ルコトニ考ヘテ居リマス、尙ホ町村債ト云フモノハ將來町村ノ利益ノタメデナケレバ發セラレナイト云ウテ町村制ノ中ニ夫々發スベキ場合ガ決メテ書イテアル様ニ思ヒマス、且ツ舊イ市町村制ノ發布前ノ餘程舊イ町村ノ負債ト云フモノガアル、夫レハ今日デモ地方債券ヲ發行スルコトカ出來ル、是レハ制度上ノ話デアリマスガ免ニ角實際ニ於テ危險ナ地方債券ガ澤山アルト承リマシタガ、其邊ヲ伺フノデアリマスガ、政府ニ於テ御調ニナリ是レハ確實アルト云フ確實ナ保證デアレバ本員ハ敢テ何も申サヌ次第デアリマス、尙ホモウ一應確ニ承ツテ置キタウゴザイマス、

○政府委員(添田壽一君) 御答ヲ致シマス、成程三箇年以内ノモノハ兩大臣ノ認可ヲ得ル限デハゴザイマセヌ、ケレドモ御承知ノ通り市町村ト云フモノハ稅ヲ取立テル大權ヲ持ッテ居テ、其證券ハ之ヲ擔保トシテ成リ立ッテ居リマスカラ、一個人ノ負債證券トハ大ニ異ッテ居リマスカラ、是レハ確實ト申上ゲテ差支ナイ積リデゴザイマス、

○議長(侯爵須賀茂韶君) 別ニ御發議ガゴザイマセヌケレバ第二讀會ヲ開クヤ否ヤノ決ヲ採リマス、本案第二讀會ヲ開クベシトスル諸君ノ起立ヲ請ヒマス、

起立者 多數

○議長(侯爵須賀茂韶君) 過半数デゴザイマス、

○子爵堤功長君 日程ヲ變更シテ直ニ第二讀會ヲ開カレムコトヲ……

○子爵小笠原壽長君 贊成、

○子爵林友幸君 贊成、

○山田卓介君 贊成、

○下鄉傳平君 贊成、

○議長(侯爵須賀茂韶君) 議事日程ヲ變更シテ直ニ第二讀會ヲ開クト云フ堤子爵ノ動議ニ贊成ノ諸君ノ起立ヲ請ヒマス、

起立者 多數

○議長(侯爵須賀茂韶君) 過半数デゴザイマス、直ニ第二讀會ヲ開キマス、是レハ別ニ修正モゴザイマセヌニ依ッテ全部ヲ列ネテ問題ニ供シマス、朗讀ハ省キマス、

(左ノ議案ハ朗讀ヲ經ザルモ參照ノタメ茲ニ載録ス)

明治二十三年法律第七十三號貯蓄銀行條例第三條第四條第五條第六條左ノ
通改正ス

第三條 貯蓄銀行ノ取締役ハ在任中ニ生シタル銀行ノ義務ニ付連帶無限ノ
責任ヲ負フモノトス

但シ其ノ責任ハ退任後二箇年ノ滿了ニ因リテ消滅ス

第四條 貯蓄銀行ハ貯蓄預金拂戻ノ擔保トシテ預金總高ノ四分ノ一ヨリ少
ナカラサル金額ヲ利付國債證券又ハ地方債證券ニテ備ヘ置キ之ヲ供託所
ニ預ケ入ル可シ

但シ擔保金額カ資本金半額以上ニ及フトキハ商業手形及確實ナル會社
ノ債券又ハ株券等ヲ用ウルコトヲ得

第五條 前條ノ金額ハ毎半箇年末日現在ノ預金高ニ依リ之ヲ定ム

第六條 預ケ人ハ第四條ノ供託諸證券ニ就キ優先權ヲ有ス

○議長(侯爵蜂須賀茂韶君) 原案ヲ可トスル諸君ノ起立ヲ請ヒマス、
起立者 多數

○議長(侯爵蜂須賀茂韶君) 過半數デゴザイマス、
○子爵堤功長君 三讀會モ同様直ニ開カレムコトヲ……

○山田卓介君 贊成、
○伯爵大原重朝君 贊成、
○子爵林友幸君 贊成、

○議長(侯爵蜂須賀茂韶君) 議事日程ヲ變更シテ直ニ第三讀會ヲ開クト云
フ堤子爵ノ動議ニ贊成ノ諸君ノ起立ヲ請ヒマス、
起立者 多數

○議長(侯爵蜂須賀茂韶君) 過半數デゴザイマス、直ニ第三讀會ヲ開キマ
ス、朗讀ハ省キマス、……原案ヲ可トスル諸君ノ起立ヲ請ヒマス、
起立者 多數

○議長(侯爵蜂須賀茂韶君) 過半數デゴザイマス、可決致シマシタ、次ニ
郵便條例中改正法律案、衆議院提出、第一讀會ノ續ヲ開キマス、特別委員長
報告、

(男爵小澤武雄君演壇ニ登ル)

○男爵小澤武雄君 本案特別委員會ノ經過及結果ヲ御報告ニ及ビマス、此
案ハ郵便條例中第一條ノ四項ノ中「農產物種子」ト云フノ四項カラ取除ケ
テ五項ヲ置クニ止マルノデゴザイマス、此農產物ノ種子ノ稅ヲ二錢ノモノヲ

貴族院議事速記録第三十二號

明治二十八年三月二日

明治二十三年法律第七十三號貯蓄銀行條例中改正法律案 第二讀會 第三讀會

一錢ニスルト云フダケノコトデ、是レハ甚ダ農業上ニ於テハ必要ナモノデア
リマシテ、又之ヲ稅ヲ減シタ所ガ格別ニ差支モナイト申スコトデアリマス、デ
此タメニ減ズベキ金額モ調ベテ見マシタガ漸ク二十八年度ノ豫算ノ中一千四
百十二圓是レ程ノ減シニナルノデアリマス、此四種ノ郵便ノ箇數ト云フモノ
ハドノ位アルカト云フコトヲ調ベテ見マシタガ、二十六年度ニ於テハ七万四
千九百六十九箇、二十八年度ノ豫定ハ十一万五千五百四十六箇位ナモノデゴ
ザイマス、此割合ヲ以テ是レカラ先キ年々増シテ行クノデ凡ソ二割位増サウト
云フコトデゴザイマス、此後二割増シタ所ガ二百九十四圓四十六錢位ノ増デ
アリマスカラ郵便總體ノ收入ノ上カラ見レバ瑣々タルコトデ一向實ハナイ、
實際ノ效用ハドウ云フモノデアアルカト願ミマスルト此種子ヲ郵送スルノハ多
クハ交換デアアル、甚ダ農業上ニ必要ナモノデアリマス、米國杯ニ於テハ種子
ノ郵稅ハ無稅ニモナツテ居リマス位デアリマスカラ、我國ニ於テモ減稅ニ
ナツテ至當ナ事デアラウト云フノデ政府モ此案ニ同意シタノデアリマス、夫
レデ是レマデノ第一條ノ四項ハ書籍、帳簿、各種ノ印刷物、寫眞、書畫、繪
圖、野紙、營業品ノ見本及雛形、農產物種子、是レダケアルノデアリマス、
此中デ農產物ノ種子ヲ取除ケマシタ跡ノ物ハ書籍其他見本等モ稅ヲ減ジテ
貰ヒタイト云フ說ガ起リ、是レハ不權衡デハナイカト云フ說ガ起リハセヌカ
ト委員會デ調ベテ見マシタガ、是レハ農產物ノ種子ダケ減稅ニナツテモ差支ナ
イノミナラズ却ツテ是レガ適當デアアル、書籍其他見本ヲ運送スルハ學校ノ在ル
所トカ商店ノアル所ニ送ルノデアリマスカラ先ヅ市外デ村落ヲ成シタ所ガ
多イ、且ツ商品ノ見本ハ金錢ヲ取扱フ者ガヤルノデアリマスカラ僅ノ稅ハ一
向感シナイ、農產物ノ種子ノ方ハ山間僻地マデモ交換ヲ及ボシテ來ルカラ甚
ダ必要デ、金錢デ賣買スルモノデナイカラ聊ノ郵稅デモ隨分苦痛ヲ感ズル次
第デアリマス、夫レ故ニ四項ノ中カラ農產物ノ種子ダケ取除イテモ一向差支
ハナイノミナラズ適當デアルト申スコトデ特別委員會ハ一致ヲ以テ可決シタ
譯デゴザイマス、

○男爵小松行正君 此案モ簡單ナル案デゴザイマスカラ御修正說モゴザイ
マセヌケレバ矢張讀會ヲ省略致シタウゴザイマス、

○渡邊甚吉君 贊成、

○關田可通君 贊成、

○根岸武香君 贊成、

○梅原修平君 贊成、

○男爵小澤武雄君 贊成、

○子爵堤功長君 贊成、

○子爵小笠原壽長君 贊成、

貴族院議事速記録第三十二號

明治二十八年三月二日

明治二十三年法律第七十三號貯蓄銀行條例中改正法律案 第二讀會 第三讀會

郵便條例中改正法律案 第一讀會ノ續

四三三

○山田卓介君

賛成、

○中島永元君

賛成、

○下郷傳平君

賛成、

○議長(侯爵蜂須賀茂韶君)

小松男爵ノ讀會省略ノ要求ニハ成規ノ賛成ガ

ゴザイマシタ、讀會省略ニ同意ノ諸君ノ起立ヲ請ヒマス、

起立者 多數

○議長(侯爵蜂須賀茂韶君)

三分ノ二以上ト認メマス、讀會ハ省略サレマ

シタ、

(左ノ議案ハ朗讀ヲ經ザルモ參考ノタメ茲ニ載録ス)

明治十五年第五十九號布告郵便條例中左ノ通改正ス

第一條中「四種」ヲ「五種」ト改メ四「農產物種子」ノ五字ヲ刪除シ「五農產物種子」ノ一項ヲ加フ

第七條、第八條、第十三條及第六十二條中「第四種」ノ下ニ「第五種」ノ三字ヲ加フ

第十七條ニ左ノ一項ヲ加フ

「第五種郵便物 重量三十匁毎ニ三十匁未一錢」

○議長(侯爵蜂須賀茂韶君)

原案ヲ可トスル諸君ノ起立ヲ請ヒマス、

起立者 多數

○議長(侯爵蜂須賀茂韶君)

過半數デゴザイマス、本案ハ可決ニナリマシ

タ、次ニ郡制改正法律案、衆議院提出、第一讀會ヲ開キマス、是レハ長イ法案デゴザンスニ依ッテ提出文ノミヲ朗讀致サセマス、

(山本書記官朗讀)

郡制改正法律案

右憲法第三十八條ニ依リ貴院ニ提出候也

明治二十八年二月二十五日

衆議院議長 楠 本 正 隆

貴族院議長侯爵蜂須賀茂韶殿

(左ノ議案ハ朗讀ヲ經ザルモ參照ノタメ茲ニ載録ス)

郡制

第一章 總則

第一款 郡及其ノ區域

第一條 郡ハ其ノ區域内ニ在ル町村ヲ總括シ法律上一個人ト等シク權利ヲ有シ義務ヲ負擔シ郡ノ公共事務ハ官ノ監督ヲ受ケテ自ラ之ヲ處理スルモノトス

第二條 郡ノ廢置分合及郡界ノ變更ハ法律ヲ以テ之ヲ定ム

第三條 郡界ニ當ル市町村ノ境界ヲ變更スルトキハ郡界モ亦自ラ變更スルモノトス

其ノ市會町村會ノ申請ニ依リ内務大臣之ヲ定ム

第四條 第二條、第三條ノ處分ニ付其ノ財產處分ヲ要スルトキハ府縣參事會之ヲ議決スヘシ但シ特ニ法律ノ規定アルモノハ此ノ限ニ在ラス

第二款 郡條例及規則

第五條 郡ノ公共事務ニシテ此ノ法律中ニ明文ナク又ハ特例ヲ設クルコトヲ許セル事項ハ其ノ郡ニ於テ特ニ條例ヲ設ケテ之ヲ規定スルコトヲ得

郡有財產及營造物ニ關シ規則ヲ設クルコトヲ得

郡條例及規則ハ法律命令ニ抵觸スルコトヲ得ス

郡條例及規則ハ各郡慣行ノ公告式ニ依リ之ヲ公告スヘシ

第二章 郡會

第一款 組織及選舉

第六條 郡會ハ郡内各選舉區ニ於テ選舉シタル議員ヲ以テ之ヲ組織ス

選舉區ハ一町村ヲ以テ一選舉區ト爲スヘシ但シ土地ノ狀況ニ依リ數町村ヲ合シテ一選舉區ト爲スコトヲ得

町村制第十六條第二項ニ該當スル町村ハ一組合ヲ以テ一町村ト看做スヘシ

第七條 郡會議員ノ數ハ十五名以上三十名以下トス

郡會議員ノ配當法ハ人口ヲ標準トシ郡條例ヲ以テ之ヲ定ム

郡會議員ノ選舉區及議員ノ配當法ヲ改正スルトキハ議員全數ヲ改選スヘシ

第八條 郡内ノ町村公民ニシテ町村會議員ノ選舉權ヲ有スル者ハ其ノ選舉區内ニ於テ郡會議員ノ選舉權ヲ有ス

町村會議員ノ被選舉權ヲ有スル者ハ其ノ郡内ニ於テ郡會議員ノ被選舉權ヲ有ス

住居ヲ移シタル爲町村ノ公民權ヲ失ヒタル者其ノ住居同郡内ニ在リ其ノ他ノ要件ヲ失ハサルトキハ仍郡會議員ノ被選舉權ヲ有ス

左ニ掲クル者ハ郡會議員タルコトヲ得ス

一 所屬府縣廳トモハ警縣官吏並ニ檢事

二 其ノ郡ノ官吏及有給吏員

三 神官僧侶又ハ諸宗ノ教師

四 小學校教員

前項ノ外官吏ニシテ當選ニ應セムトスル者ハ本屬長官ノ許可ヲ受クヘシ

第九條 郡會議員ハ名譽職トス其ノ任期ハ四年トシ毎二年其ノ半數ヲ改選

ス若其ノ員數二分シ難キトキハ初回ニ於テ多數ノ一半ヲ解任セシム初回

ニ於テ解任スヘキ者ハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ム

第十條 議員ハ再選セラルコトヲ得

第十條 議員中缺員アルトキハ遅クモ三箇月以内ニ補缺選舉ヲ行フヘシ補

第十一條 郡會議員ノ選舉ハ郡長ノ告示ニ依リ其ノ選舉區内ニ於テ郡長ノ

指定シタル町村長之ヲ行フヘシ其ノ告示ハ通常選舉ハ七十日前臨時選舉

第十二條 町村長ハ通常選舉ヲ行フ毎ニ其ノ選舉前五十日ヲ限リ各選舉人

ノ資格ヲ記載シタル選舉人名簿ヲ製スヘシ

選舉人名簿ハ其ノ調製ノ翌日ヨリ七日間町村役場ニ於テ關係者ノ縱覽ニ

供スヘシ若關係者ニ於テ異議アルトキハ同期限内ニ之ヲ町村長ニ申立ツ

ヘシ町村長ニ於テ修正スヘシト決定シタルトキハ選舉前三十日ヲ限リ之

ニ修正ヲ加ヘテ確定名簿ト爲シ之ニ登録セラレサル者ハ何人タリトモ選

舉ニ關スルコトヲ得ス

前項町村長ノ決定ニ不服アル者ハ名簿確定後七日以内ニ郡參事會ニ訴願

スルコトヲ得

本條ニ依リ確定シタル名簿ハ次期ノ通常選舉マテ之ヲ据置キ臨時ノ選舉

ニモ亦之ヲ使用スルモノトス

確定名簿ト雖郡參事會及府縣參事會ノ裁決又ハ行政裁判所ノ判決ニ依リ

訂正スヘキモノハ町村長ニ於テ其ノ通知ヲ受ケタル時ヨリ二十四時間以

内ニ之ヲ訂正シ其ノ旨町村内ニ告示シ且當人ニ通知スヘシ

第十三條 選舉ヲ行フ町村長ハ選舉前七日ヲ限リ選舉ノ場所日時及選舉ス

ヘキ議員ノ數ヲ公告スヘシ

第十四條 選舉掛ハ名譽職トシ選舉ヲ行フ町村長ニ於テ臨時ニ選舉人中ヨ

リ二名若ハ四名ヲ選任シ其ノ町村長若ハ代理者ハ其ノ掛長トナリ選舉會

ヲ開閉シ其ノ會場ノ取締ニ任ス

第十五條 選舉開會中ハ選舉人ノ外何人タリトモ選舉會場ニ入ルコトヲ得

ス選舉人ハ選舉會場ニ於テ協議又ハ勸誘ヲ爲スコトヲ得ス

第十六條 選舉ハ投票ヲ以テ之ヲ行フ投票ニハ被選舉人ノ氏名ヲ記シ封緘

ノ上選舉人自ラ掛長ニ差出スヘシ但シ選舉人ノ氏名ハ投票ニ記入スルコ

トヲ得ス

選舉人投票ヲ差出ストキハ自己ノ氏名及住所ヲ掛長ニ申立テ掛長ハ選舉

人名簿ニ照シテ之ヲ受ケ封緘ノ儘投票函ニ投入スヘシ但シ投票函ハ投票

ヲ終ル迄開クコトヲ得ス

第十七條 投票ニ記載ノ人員其ノ選舉スヘキ定數ニ過キ又ハ不足アルモ其

ノ投票ヲ無効トセス其ノ定數ニ過クルモノハ末尾ニ記載シタル人名ヲ順

次ニ棄却スヘシ

左ノ投票ハ之ヲ無効トス

一 人名ヲ記載セス又ハ記載セル人名ノ讀難キモノ

二 被選舉人ノ何人タルヲ確認シ難キモノ

三 被選舉權ナキ人名ヲ記載スルモノ

以上三種ノ投票中他ニ列記ノ被選舉人ニ付テハ仍其ノ效アリトス

被選舉人氏名ノ外他事ヲ記入スルモノ但シ爵位職業身分住所又ハ敬

稱ヲ記スモノハ無効ト爲スノ限ニ在ラス

投票ノ受理並ニ效力ニ關スル事項ハ選舉掛假ニ之ヲ議決ス可否同數ナル

トキハ掛長之ヲ決ス

第十八條 選舉ハ選舉人自ラ之ヲ行フヘシ他人ニ託シテ投票ヲ差出スコト

ヲ許サス

第十九條 議員ノ選舉ハ有效投票ノ多數ヲ得タル者ヲ以テ當選トス投票ノ

數相同キモノハ生年月ノ長者ヲ取リ同年月ナルトキハ掛長自ラ抽籤シテ

其ノ當選ヲ定ム

第二十條 選舉掛ハ選舉錄ヲ製シテ選舉ノ顛末ヲ記錄シ選舉ヲ終リタル後

之ヲ朗讀シ選舉人名簿其ノ他關係書類ヲ合綴シテ之ニ署名スヘシ

投票ハ之ヲ選舉錄ニ附屬シ選舉ノ效力ヲ確定スル迄之ヲ保存スヘシ

第二十一條 選舉ヲ終リ當選人定マリタルトキハ選舉掛長直ニ當選人ニ通

知シ同時ニ郡長ニ報告スヘシ

當選人當選ノ通知ヲ受ケタルトキハ五日以内ニ其ノ當選ヲ承諾スルヤ否

ヤヲ郡長ニ届出ヘシ

一人ニシテ數箇所ノ選舉ニ當リタルトキハ同期限内ニ何レノ選舉ニ應ス

ヘキコトヲ郡長ニ届出ヘシ

前二項ノ届出ヲ其ノ期限内ニ爲サハルトキハ當選ヲ辭シタルモノト視做

スヘシ

第二十二條 議員ノ當選ヲ辭シ又ハ承諾ノ届出ヲ爲サハル者アルトキハ郡

長ハ七日以内ニ町村長ニ命シテ更ニ選舉ヲ行ハシムヘシ

二人以上投票同數ニシテ年長者若ハ抽籤ニ依テ當選ヲ得タル者其ノ當選

ヲ辭シ又ハ承諾ノ届出ヲ爲サハルトキハ第一ニ抽籤ノ爲當選ヲ失ヒタル

本人ニ通知スヘシ

第二十三條 當選人確定シタルトキハ郡長ハ直ニ當選證書ヲ附與シ及管内ニ告示スヘシ

第二十四條 選舉人選舉ノ效力ニ關シテ訴願セムトスルトキハ選舉ノ日ヨリ十四日以内ニ郡參事會ニ申立ルコトヲ得

第二十五條 當選人其ノ當選ノ際資格ノ要件ヲ有セサルコト發覺スルトキハ其ノ當選ヲ無効トス

當選人當選後資格ノ要件ヲ失フトキハ議員ノ職ヲ失フモノトス

第二十六條 郡會ニ於テ其ノ議員中議員タルノ資格ヲ有セサル者アルコトヲ發見スルトキハ其ノ議決ヲ以テ之ヲ郡長ニ通知スヘシ

第二十七條 郡會議員選舉權被選舉權ノ有無選舉ノ效力及選舉人名簿ノ正否ハ郡參事會之ヲ裁決ス

郡參事會ノ裁決ニ不服アル者ハ府縣參事會ニ訴願シ府縣參事會ノ裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

訴願又ハ出訴ノ爲執行ヲ停止スルコトヲ得ス但シ裁決確定シ若ハ判決アルニ非サレハ更ニ選舉ヲ行フコトヲ得ス

第二十八條 郡會議員選舉ニ關スル罰則ハ明治二十三年(五月)法律第三十九號市町村會議員選舉罰則ヲ適用ス

第二款 職務權限及處務規程

第二十九條 郡會ノ議決スヘキ事件左ノ如シ

一 郡條例及規則ヲ設クル事

二 郡ノ歳入出豫算ヲ定ムル事

三 決算報告ヲ認定スル事

四 郡有不動産ノ賣買交換讓渡讓受並ニ質入書入ノ事

五 歳入出豫算ヲ以テ定ムルモノヲ除ク外新ニ義務ノ負擔ヲ爲シ及權利ヲ棄却スル事

六 郡有財産ノ管理及營造物ノ維持方法ヲ定ムル事

其ノ他法律命令ニ依リ郡會ノ權限ニ屬スル事項

第三十條 郡會ハ郡ノ事務ニ關スル書類及計算書ヲ檢閲シ郡長ノ報告ヲ請求シテ事務ノ管理議決ノ施行並ニ收入支出ノ正否ヲ監査スルノ職權ヲ有ス

第三十一條 郡會ハ其ノ權限ニ屬スル事件ヲ郡參事會ニ委任スルコトヲ得

第三十二條 郡會ハ郡ノ利害ニ關スル事件ニ付意見書ヲ監督官廳ニ出スコトヲ得

第三十三條 郡會ハ官廳ノ諮問アルトキハ意見ヲ陳述スヘシ

第三十四條 郡會議員ハ選舉人ノ指示若ハ委囑ヲ受クヘカラス

第三十五條 郡會議員ハ自己及其ノ父母兄弟若ハ妻子ノ一身上ニ關スル事件ニ付テハ會議ノ承諾ヲ經ルニ非サレハ郡會ノ議事ニ參與シ及其ノ議決ニ加ハルコトヲ得ス

第三十六條 郡會ハ議長副議長各一名ヲ互選スヘシ其ノ任期ハ二年トス

議長副議長共ニ故障アルトキハ臨時議長ヲ互選スヘシ

議長副議長辭職又ハ其ノ他ノ事故ニ係リ缺位トナリタルトキハ後任者ヲ互選スヘシ其ノ後任者ハ前任者ノ殘任期間在職スルモノトス

第三十七條 郡長若ハ特ニ郡長ノ委任ヲ受ケタル郡官吏郡吏員及郡參事會員ハ郡會ノ議事ニ參與スルコトヲ得但シ議決ノ數ニ加ハルコトヲ得ス

第三十八條 郡會ハ毎年一回通常會ヲ開クヘシ其ノ他必要アルトキハ其ノ事件ニ限リ臨時會ヲ開クコトヲ得

郡會ハ郡長之ヲ招集ス若議員三分ノ一以上ニ於テ臨時ノ招集ヲ請求スルトキハ之ヲ招集スヘシ其ノ招集並ニ會議ノ事件ハ開會日ヨリ十日以前ニ告示スヘシ但シ急施ヲ要スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

郡會ハ郡長之ヲ開閉ス

第三十九條 郡會ハ議員半數以上出席スルニ非サレハ會議ヲ開キ議決ヲ爲スコトヲ得但シ同一ノ議事ニ付招集二回ニ至ルモ議員猶半數ニ滿タサルトキハ此ノ限ニ在ラス

第四十條 郡會ノ議決ハ過半數ニ依ル可否同數ナルトキハ議長ノ決スル所ニ依ル

第四十一條 郡會ニ於テ議長副議長及名譽職參事會員ノ選舉ヲ行フトキハ一名毎ニ匿名投票ヲ爲シ有效投票ノ過半數ヲ得タル者ヲ以テ當選トス若過半數ヲ得タル者ナキトキハ最多數ヲ得タル者二名ヲ取り之ニ就テ決選投票セシム其ノ二名ヲ取ルニ當リ同數者アルトキハ年長ヲ取り同年月ナレハ議長自ラ抽籤シテ之ヲ定ム此ノ決選投票ニ於テハ最多數ヲ得タル者ヲ以テ當選トシ若同數ナレハ年長ヲ取り同年月ナレハ抽籤ヲ以テ當選ヲ定ム其ノ他第十六條、第十七條、第十八條ヲ適用ス議長選舉ノ場合ニハ議員中ノ年長者ヲ以テ假議長トス

第四十二條 郡會ハ會議ハ公開ス但シ議長ノ意見又ハ郡長ノ要求若ハ議員三名以上ノ發議ニ依リ可決シタルトキハ傍聽ヲ禁スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ討論ヲ用井スシテ其ノ可否ヲ決スヘシ

第四十三條 議長ハ議事ノ順序ヲ定メ會議及選舉ノ事ヲ總理シ其ノ日ノ會議ヲ開閉シ議場ノ秩序ヲ保持ス

第四十四條 會議中此ノ法律若ハ議事規則ニ違ヒ其ノ他議場ノ秩序ヲ紊ス

議員アルトキハ議長之ヲ警戒シ又ハ制止シ又ハ發言ヲ取消サシム命ニ從ハサルトキハ議長ハ當日ノ會議ヲ終ル迄發言ヲ禁止シ又ハ議場ノ外ニ退去セシムヘシ若強抗ニ涉ル者アルトキハ警察官ノ處分ヲ求ムルコトヲ得

第四十五條 傍聽人公然可否ヲ表シ又ハ喧騒ニ涉リ其ノ他議事ノ妨害ヲ爲ス者アルトキハ議長ハ之ヲ制止シ若命ニ從ハサルトキハ之ヲ退場セシム

必要ナル場合ニ於テハ警察官ノ處分ヲ求ムルコトヲ得

傍聽席騷擾ナルトキハ議長ハ總テノ傍聽人ヲ退場セシムルコトヲ得

第四十六條 郡會ニ書記ヲ置キ議長ニ隸屬シテ庶務ヲ掌理セシム

書記ハ議長之ヲ選任ス

第四十七條 郡會ハ書記ヲシテ議事録ヲ製シ議決及選舉ノ顛末並ニ出席議員ノ氏名ヲ記錄セシムヘシ議事録ハ議長及議員二名以上之ニ署名スルヲ要ス其ノ議員ハ會議ノ初ニ於テ之ヲ定メ議事録中ニ其ノ氏名ヲ記載シ置クヘシ

第四十八條 郡會ハ議事規則及傍聽人取締規則ヲ設クヘシ

第三章 郡行政

第一款 郡參事會郡吏員及委員ノ組織選任

第四十九條 郡ニ郡參事會ヲ置キ左ノ職員ヲ以テ之ヲ組織ス

- 一 郡長 一名

- 二 名譽職參事會員 五名

第五十條 郡參事會ハ郡長ヲ以テ議長トス議長故障アルトキハ出席會員中ヨリ臨時議長ヲ互選スヘシ

第五十一條 名譽職參事會員ハ其ノ郡内ニ於テ郡會議員ノ被選舉權ヲ有スル者ノ中ヨリ郡會之ヲ選舉ス其ノ任期ハ四年トシ毎二年其ノ半數ヲ改選ス若二分シ難キトキハ初回ニ於テ多數ノ一半ヲ解任セシム初回ノ解任者ハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ム但シ任期滿限ノ後ト雖後任者就職ノ日迄在職スルモノトス

退職者ハ再選セラル、コトヲ得

郡會ハ毎通常會ニ於テ名譽職參事會員ノ補充員トシテ正員ト同數ヲ選舉シ關員アルトキハ郡長ニ於テ補充員中投票多數ノ順次ニ依リ之ヲ補充シ

仍關員ヲ生シタル場合ニ於テハ三十日以内ニ臨時補闕選舉ヲ行フヘシ但シ其ノ補充シタル者ハ前任者ノ殘任期間在職スルモノトス

第五十二條 名譽職參事會員ハ第八條第四項ニ掲載スル職ヲ兼ヌルコトヲ

得ス

父子兄弟タルノ緣故アル者ハ同時ニ郡參事會員タルコトヲ得ス

第五十三條 名譽職參事會員ノ選舉ニ就テハ郡參事會自ラ其ノ效力ノ有無ヲ議決ス

當選者中其ノ資格ノ要件ヲ有セサル者アルコト發覺シ又ハ就職後其ノ要件ヲ失フ者アルトキハ其ノ人ノ當選ハ效力ヲ失フモノトス其ノ要件ノ有無ハ郡參事會之ヲ議決ス

前項ノ議決ニ不服アル者ハ府縣參事會ニ訴願シ其ノ府縣參事會ノ裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ第二十七條第三項ヲ適用ス

第五十四條 郡長ハ郡會ノ議決ヲ經テ郡費ヲ以テ支辨スル公共事務ニ從事セシムル爲有給吏員ヲ置クコトヲ得但シ郡長之ヲ任免ス

第五十五條 郡長ハ郡會ノ議決ヲ經テ臨時或ハ常設ノ委置ヲ置キ郡ノ公共事務ヲ分掌セシム又ハ郡有財産及營造物ノ一部ヲ管理セシムルコトヲ得委員ハ名譽職トシ其ノ選舉ノ方法及任期ハ郡會ノ議決スル所ニ依ル

第二款 郡參事會並ニ郡吏員ノ職務權限及處務規定

第五十六條 郡參事會ノ職務權限左ノ如シ

一 郡會ノ權限ニ屬スル事件ニシテ其ノ委任ヲ受ケタルモノヲ議決スル事

二 郡會ノ權限ニ屬スル事件ニシテ臨時急施ヲ要シ郡長ニ於テ郡會ヲ召集スルノ暇ナシト認ムルトキ郡會ニ代テ議決スル事

三 郡會ノ議決シタル範圍内ニ於テ郡有財産ノ管理營造物ノ維持及公共事件ノ執行方法ニ關シ必要ナル事項ヲ議決スル事

四 郡ノ收入支出命令會計及出納金庫ヲ監視スル事

五 郡ノ權利ヲ保護シ郡ノ證書及公文書類ノ保管ヲ監視スル事

六 外部ニ對シ郡ヲ代表シ郡ノ名義ヲ以テ訴訟及和解ヲ爲シ郡ノ權利義務ニ關シ他廳又ハ人民ト商議スル事

七 郡會ノ議案ニ付郡長ニ對シ意見ヲ述ヘ及會議ニ報告スル事

八 官廳ノ諮問ニ對シテ意見ヲ述フル事

其ノ他法律命令ニ依リ郡參事會ノ權限ニ屬スル事項

第五十七條 郡參事會ハ郡長之ヲ召集ス

會員半數以上ノ請求アルトキハ郡長ハ郡參事會ヲ召集スヘシ

第五十八條 郡參事會ノ會議ハ郡會議員ノ外傍聽ヲ許サス但シ郡參事會ノ決議ニ依リ郡會議員ノ傍聽ヲ禁スルコトヲ得

第五十九條 郡參事會ハ名譽職參事會員半數以上出席スルニ非サレハ會議

ヲ開キ議決ヲ爲スコトヲ得ス但シ同一ノ議事ニ付招集再回ニ至ルモ名譽職參事會員猶半數ニ滿タサルトキハ此ノ限ニ在ラス
郡參事會ノ議決ハ過半數ニ依リ可否同數ナルトキハ議長ノ決スル所ニ依ル

議決ノ事件ハ之ヲ議事錄ニ記載シ議長及名譽職參事會員二名以上之ニ署名スヘシ

第六十條 第三十五條ノ規定ハ郡參事會ニモ亦之ヲ適用ス但シ同條ノ規定ニ依リ會員減少シテ正當ノ郡參事會ヲ開クコトヲ得サルトキハ郡長ハ補充員ヲ以テ臨時之ニ充テ仍其ノ數ヲ得サルトキハ郡會議員ニシテ其ノ事件ニ關係ナキ者ヲ臨時ニ指名シ其ノ不足ヲ補充シテ第四十九條ノ定數ニ滿タシムヘシ

第六十一條 町村制ノ規定ニ依リ郡參事會ノ權限ニ屬スル事件ニシテ二郡以上ノ町村ニ交渉スルモノアルトキハ其ノ郡長ノ具狀ニ依リ府縣知事ニ於テ其ノ事件ヲ管理スヘキ郡參事會ヲ指定スヘシ二府縣以上ノ町村ニ交渉スルモノアルトキハ其ノ府縣知事ノ具狀ニ依リ內務大臣ニ於テ之ヲ指定スヘシ

第六十二條 郡長ハ郡會及郡參事會ノ議事ヲ準備シ其ノ議決ヲ執行ス

第六十三條 郡會ニ於テ名譽職參事會員ヲ選舉セス又ハ郡參事會成立セス又ハ郡參事會招集ニ應ゼサルトキハ郡長ハ郡參事會ノ權限ニ屬スル事件ヲ專決處分スルコトヲ得

非常事變ニ際シ郡參事會ヲ招集スルノ暇ナキトキハ郡長ハ郡參事會ノ職務ヲ專決處分スルコトヲ得

本條ノ處分ハ次回ノ郡會ニ報告スヘシ

第六十四條 郡吏員ハ郡長ノ指揮ヲ受ケ公共事務ニ従事ス

第六十五條 郡長ハ郡吏員ヲ監督シ又懲戒處分ヲ行フコトヲ得懲戒處分ハ譴責解職及十圓以下ノ過怠金トス但シ解職ノ懲戒處分ハ郡參事會ノ議決ヲ經ヘシ

前項ノ處分ニ不服アル者ハ府縣參事會ニ訴願シ府縣參事會ノ裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第三款 給料及給與

第六十六條 郡吏員ノ給料並ニ旅費日當額ハ郡會ノ議決ヲ以テ之ヲ定ム

第四章 郡ノ會計

第六十七條 郡會議員名譽職參事會員及委員ニハ旅費日當ヲ給スルコトヲ得但シ其ノ支給額及支給方法ハ郡條例ヲ以テ規定スヘシ

第六十八條 郡ノ權利義務ニ屬スル諸費及法律命令若ハ慣例ニ依リ郡ノ負

擔トナル事件ニ關スル費用ハ其ノ郡ニ於テ之ヲ支辨スヘシ

第六十九條 郡ノ支出ニ充ツル費用ハ郡有財產ヨリ生スル收入其ノ他雜收入ヲ以テ充ツルモノ、外ハ郡內各町村ニ分賦ス其ノ分賦ハ府縣稅ノ課目ニ依リ郡會之ヲ議決ス但シ本條ノ分賦法ニ據リ難キ事情アルトキハ郡會ニ於テ特別法ヲ設ケ內務大臣ノ認可ヲ得テ施行スルコトヲ得

各町村分賦ノ額ハ各町村ニ於テ之ヲ町村ノ豫算ニ編入シ町村稅トシテ徵收シ其ノ總額ヲ郡金庫ニ納ムヘシ

第七十條 郡內ノ或部分ニ對シテ利益アル土木事業ヲ起ストキハ郡會ノ議決ニ依リ該部分ノ町村ニ對シテ通常分賦額ノ外其ノ利益ノ厚薄ニ應シ特ニ夫役現品ヲ増課スルコトヲ得

第七十一條 郡ハ天災事變ノ爲ニ付得サル支出又ハ其ノ郡ノ永久ノ利益トナルヘキ支出ヲ要スルニ當リ通常ノ歲入ヲ増加スルトキ郡內町村ノ負擔ニ堪ヘサル場合ニ限リ郡會ノ議決ヲ以テ郡債ヲ起スコトヲ得

郡債ヲ起スノ議決ヲ爲ストキハ併セテ起債ノ方法利息ノ定率及償還ノ方法ヲ定ムヘシ

郡債償還ノ初期ハ三年以內ト爲シ年々ノ償還歩合ヲ定メ起債ノ時ヨリ三十年以內ニ還スヘシ

歲入出豫算內ノ支出ヲ爲スカ爲必要ナル一時ノ借入金ニシテ其ノ年度內ノ收入ヲ以テ償還スヘキモノハ本條ノ限ニ在ラス但シ郡參事會ノ議決ヲ經ルコトヲ要ス

第七十二條 郡長ハ毎年其ノ翌年度ニ關スル歲入出豫算ヲ調製スヘシ但シ郡ノ會計年度ハ政府ノ會計年度ニ同シ

豫算ハ郡會ノ議決ニ付スルノ前郡參事會ノ審查ニ付スヘシ若郡長ト郡參事會ト意見ヲ異ニスルトキハ郡參事會ノ意見ヲ豫算ニ添ヘ郡會ニ提出スヘシ追加又ハ臨時ノ豫算ニ就テモ亦同シ

內務大臣ハ省令ヲ以テ豫算調製ノ式ヲ定メ並ニ費目流用ニ關スル規定ヲ設クルコトヲ得

第七十三條 豫算ハ毎年郡會ノ議決ヲ取り之ヲ府縣知事ニ報告シ並ニ郡慣行ノ公告式ニ依リ其ノ要領ヲ告示スヘシ追加又ハ臨時ノ豫算ヲ議定シタル場合ニ於テモ亦同シ

郡ノ費用ヲ以テ支辨スル事業ニシテ數年ヲ期シテ施行スヘキモノ又ハ數年ヲ期シテ其ノ費用ヲ支出スヘキモノハ郡會ノ議決ヲ以テ其ノ年期間各年度ノ支出額ヲ定メ繼續費ト爲スコトヲ得

豫算ヲ郡會ニ提出スルトキハ郡長ハ併セテ其ノ郡有財產明細表ヲ提出スヘシ

第七十四條 歲入出豫算中ニ豫備費ヲ設クヘシ豫備費ハ郡長ニ於テ郡參事會ノ議決ヲ經テ已ムヲ得サル豫算外ノ支出又ハ豫算超過ノ支出ニ充ツルコトヲ得但シ郡會ノ否決シタル費途ニ充ツルコトヲ得ス

第七十五條 郡ノ收支命令ハ郡長之ヲ發スヘシ

第七十六條 郡ノ會計ヲ管理スル郡官吏ハ前條ノ命令アルニ非サレハ支拂ヲ爲スコトヲ得ス又其ノ命令アルモ支出ノ豫算ナキカ又ハ豫備費支出及費目流用ノ規定ニ依ラサルトキハ支拂ヲ爲スコトヲ得ス

第七十七條 郡ノ出納及金庫ハ毎月例日ヲ定メテ檢査シ及毎年少クモ一回臨時檢査ヲ爲スヘシ檢査ハ郡長之ヲ爲ス臨時檢査ニハ名譽職參事會員一名以上ノ立會ヲ要ス

第七十八條 決算ハ郡長會計吏ニ命シテ會計年度後三箇月以内ニ調製シ郡參事會ノ審査ヲ經テ之ヲ次回ノ通常郡會ノ認定ニ付スヘシ

決算報告書竝ニ之ニ關スル郡會ノ議決ハ郡長ヨリ之ヲ府縣知事ニ報告シ竝ニ決算ハ郡慣行ノ公告式ニ依リ其ノ要領ヲ告示スヘシ

第五章 郡組合

第七十九條 地形ノ便利又ハ其ノ郡ノ事情ニ依リ數郡ニ一郡役所ヲ置キ其ノ事務ヲ共同處分スル爲其ノ郡ノ協議ニ依リ內務大臣ノ認可ヲ得テ數郡ノ組合ヲ設クルコトヲ得

法律上ノ義務ヲ負擔スルニ耐ユヘキ資力ヲ有セスト認ムル郡ニシテ數郡組合ノ協議整ハサルトキハ府縣參事會ノ議決ヲ以テ內務大臣ノ認可ヲ得其ノ組合ヲ設ケシムルコトヲ得

第八十條 數郡組合ノ協議ヲ爲ストキハ郡組合會ノ組織事務ノ管理法竝ニ其ノ費用ノ負擔方法其ノ他必要ナル事項ヲ併セテ規定スヘシ

前條第二項ノ場合ニ於テハ其ノ數郡ノ協議ヲ以テ前項ノ事件ヲ規定スヘシ若其ノ協議整ハサルトキハ府縣參事會ニ於テ之ヲ定ムヘシ

本條ノ規定ハ內務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第八十一條 第七十九條第八十條ノ協議ハ其ノ關係町村長及町村會ニ於テ選舉シタル一名ノ協議員ヲ以テ之ニ充ツルモノトス

第八十二條 第七十九條ノ組合ヲ廢止シ又ハ變更セムトスルトキハ內務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第六章 監督

第八十三條 郡ノ行政ハ第一次ニ於テ府縣知事之ヲ監督シ第二次ニ於テ內務大臣之ヲ監督ス

第八十四條 此ノ法律中別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外郡ノ行政ニ關スル府縣知事又ハ府縣參事會ノ處分若ハ裁決ニ不服アル者ハ內務大臣ニ訴願

スルコトヲ得

前項ノ訴願ハ其ノ事件ノ處分若ハ裁決ヲ受ケタル日ヨリ二十一日以内ニ其ノ理由ヲ具シテ提出スヘシ

此ノ法律ニ指定スル場合ニ於テ郡長ノ處分又ハ郡參事會ノ裁決ニ不服アリテ府縣參事會ニ訴願セムトスル者ハ處分又ハ裁決ヲ受ケタル日ヨリ十四日以内ニ訴願スヘシ又府縣知事ノ處分又ハ府縣參事會ノ裁決ニ不服アリテ行政裁判所ニ出訴セムトスル者ハ裁決ヲ受ケタル日ヨリ二十一日以内ニ出訴スヘシ

行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得ヘキ場合ニ於テハ內務大臣ニ訴願スルコトヲ得ス

第八十五條 監督官廳ハ郡行政ノ法律命令ニ背戾セサルヤ其ノ事務錯亂滯セサルヤ否ヲ監視スヘシ監督官廳ハ之ヲ爲行政事務ニ關シテ報告ヲ爲サシメ豫算及決算等ノ書類帳簿ヲ徴シ竝ニ實地ニ就テ事務ノ現況ヲ視察シ出納ヲ檢閱スルノ權ヲ有ス

第八十六條 郡會招集ニ應セス又ハ成立セサルトキハ郡長ハ府縣知事ノ指揮ヲ請ヒ處分スルコトヲ得

前項ノ處分ハ次回ノ郡會ニ報告スヘシ

第八十七條 郡會又ハ郡參事會其ノ議決スヘキ議案ヲ議決セサル場合ニ於テ其ノ事緊急ヲ要スルトキ又ハ法律命令若ハ慣行ニ依テ郡ノ負擔ニ屬スル行政上又ハ公益上必要ノ費用ヲ否決シ若ハ議決スト雖必要ノ給需ヲ缺クトキハ郡長ハ府縣知事ニ具狀シ其ノ指揮ヲ請フヘシ

前項ノ處分ハ次回ノ郡會又ハ郡參事會ニ報告スヘシ

第八十八條 第八十六條、第八十七條ノ場合ニ於テハ府縣知事ハ府縣參事會ノ議決ヲ經テ指揮スヘシ但シ歲入出豫算ニ係ルモノハ原案ノ金額以內ニ於テ適當ノ金額ヲ定メ指揮スルコトヲ得

第八十九條 郡會又ハ郡參事會ノ議決其ノ權限ヲ超ヘ法律命令ニ背キ又ハ公益ヲ害スト認ムルトキハ郡長ハ自己ノ意見ニ依リ又ハ監督官廳ノ指揮ニ依リ理由ヲ示シテ議決ノ執行ヲ停止シ之ヲ再議セシメ猶其ノ議決ヲ改メサルトキハ府縣參事會ノ裁決ヲ請フヘシ其ノ權限ヲ超ヘ法律命令ニ背クニ依テ議決ノ執行ヲ停止シタル場合ニ於テ府縣參事會ノ裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第九十條 郡會ハ內務大臣之ヲ解散セシムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ三箇月以内ニ議員ヲ選舉スヘシ

前項解散ノ場合ニ於テハ名譽職參事會員モ亦解職スルモノトス

郡委員ハ郡會ノ解散ニ依リ解職スルノ限ニ在ラス但シ郡會ノ議決ヲ以テ

之ヲ改選スルコトヲ得

郡會解散ノ後選舉結了ニ至ル迄ノ間急施ヲ要スル事件アルトキハ郡長之ヲ專決處分スルコトヲ得

前項ノ處分ハ次回ノ郡會ニ於テ認定ヲ受クヘシ

第九十一條 左ノ事件ニ關スル郡會ノ議決ハ内務大臣及大藏大臣ノ認可ヲ受クルコトヲ要ス

一 新ニ郡債ヲ起シ又ハ其ノ額ヲ増加シ若ハ償還ノ方法ヲ變更スル事

第九十二條 左ノ事件ニ關スル郡會ノ議決ハ内務大臣ノ認可ヲ受クルコトヲ要ス

一 郡條例ヲ設クル事

第九十三條 左ノ事件ニ關スル郡會ノ議決ハ府縣知事ノ認可ヲ受クルコトヲ要ス

一 郡ノ規則ヲ設クル事

二 郡有不動産ノ賣却交換讓渡並ニ質入書入ノ事

三 第七十條ニ依リ郡内ノ或部分ニ對シ特ニ夫役現品ヲ増課スル事

四 第七十三條第二項ニ依リ繼續費ヲ定メ及其ノ年期内ニ議決ヲ變更スル事

第七章 附則

第九十四條 郡内總町村ノ共有ニ屬スル財産及營造物ハ郡内總町村ノ聯合又ハ組合ヲ以テ設立セル小學校ヲ除クノ外此ノ法律施行ノ日ヨリ郡ノ所有ニ歸シ其ノ權利義務共同時ニ郡ニ移ルモノトス

第九十五條 府縣制ヲ施行スル迄ノ間府縣參事會ニ屬スル職務ハ府縣知事之ヲ行フ

第九十六條 島司ヲ置ケル島嶼ニ於テハ別ニ勅令ヲ以テ其ノ制ヲ定ム

第九十七條 此ノ法律ニ依リ始メテ議員ヲ選舉スルニ付郡會及郡參事會ノ職務ハ郡長ニ於テ之ヲ行フヘシ

第九十八條 此ノ法律施行ノ後ハ町村制第二百二十六條第三ニ定ムル附加稅徵收ノ許可ハ地租ハ五分ノ一ヲ超過スルトキ之ヲ要スルモノトス

第九十九條 此ノ法律ハ町村制ヲ施行シタル各府縣ニ於テ明治二十九年四月一日ヨリ施行スルモノトス但シ内務大臣ハ地方ノ情況ニ依リ期限前ト雖之ヲ實施スルコトヲ得

第一百條 明治十一年第十七號布告郡區町村編制法明治二十三年法律第三十六號郡制其ノ他此ノ法律ニ牴觸スル成規ハ此ノ法律施行ノ日ヨリ總テ之ヲ廢止ス

第一百一條 内務大臣ハ此ノ法律施行ノ責ニ任シ之カ爲必要ナル命令ヲ發布ス

スヘシ

○柴原和君 本案ニ附キマシテ少シ政府委員ニ御尋ヲ致シマス、本案ハ地方ニ取リマシテハ重大ノ案デゴザイマスガ、是レハ政府案デハゴザイマセス衆議院提出デゴザイマスガ、是レニハ現行ノ郡制トハ餘程違ッテ居リマシテ餘程改ッテ居リマス、然ルニ其重立ツタルモノハ大地主ノ制ヲ廢セラレマシタノト複選法ナゾヲ無クシテゴザイマス、是レ等ガ餘程重立ツタモノデアリマス、大地主杯ト云フモノハ郡内ニ一萬圓以上ノ地價ヲ持チマシタ者デ、是レ等ヲ郡會ニ加ヘマスノハ餘程必要ナ事デアリマス、又複選法ナゾハ選舉權ヲ擴充致シ直接ノ選舉法トハ違ヒマシテ種々ノ弊害ヲ防グコトト考ヘマス、政府モ是レニハ不同意ヲ表セラレルコトト考ヘテ居リマス、然ルニ衆議院ノ速記録ヲ見マスルニ少シモ反對ヲ致シ不同意ヲ表サレタノガ見エザルノミナラズ、即チ其速記録ヲ見マスルニ同意ヲ表サレテ居ル様ニ見エマスカラ、ソコヲヲチヨット伺ヒタイ、チヨットソコヲ讀ミマスガ、衆議院ノ速記録ノ或ル議員ノ申サレタ事ガ是レニ書イテゴザイマスニ、チヨット大意ヲ擧ゲテ申シマス「彼ノ大地主ノ制ノコトニ至ッテモ其範圍ヲ狹小シ又ハ複選法ノ不都合ナル不備ナル所ヲ全クスルト云フ點ノ如キハ政府委員ニ於テモ同意ヲスルト云フコトヲ明言サレテ居ル」云々トアリマス、實ニ是レ等ノ事ハ本員ハ郡制ニ於テハ大切ノ事デアリマス、又各府縣ノ所ニ於テ郡制ヲ施行シテ居ル所ハ三分ノ一モナイト考ヘマス、本員ナゾハ即チ明治二十三年ニ郡制ヲ布カレル前年ニ内務大臣ハ地方官ヲ召サレマシテ府縣郡制ノ事ハ諮問ニナリマシテ、本員モ其節ハ地方官ニ居リマシテ諮問ヲ辱ク致シマシテ、數十日ノ間餘程研究ヲ致シマシタ、其節大地主ノ制ノ事又複選法ノ事ハ誠ニ必要デ、即チ郡會ナゾノ機關デゴザイマシテ郡會ナゾヲ圓滑ニスル誠ニ骨子デアリマス、夫レヲ拔カレタノニ同意デアルト云フコトハ甚ダ如何ト考ヘマスデ其事ノ御意見ヲ御尋申スノデゴザイマス、モウ一ツ御尋……

○議長(侯爵須賀茂韶君) 柴原君ハ御質問ノ如クニモアリ御意見ノ様デモアリマスガ如何デゴザイマスカ、

○柴原和君 質問デゴザイマス、御意見ヲ聞クノハ矢張り質問ト考ヘマス、モウ一ツ質問シマスルノハ此度提出ノ第九十九條デガス「此ノ法律ハ町村制ヲ施行シタル各府縣ニ於テ明治二十九年四月一日ヨリ施行スルモノトス」トゴザイマス、目今ノ府縣郡制ト申スモノハ府縣知事ノ具申ニ依リマシテ内務大臣ガ定メテ施行スル様ニシデアリマス、然ルニ此度ノ如ク是レガ可決ニナリマシテ是レガ用ヒラレル日ニナリマスレバ即チ此大地主ノ制ヲ廢セラレマスト唯今全國各府縣ノ三分一程施行ニナッテ居ルト考ヘマス其郡會ノ議員ハ悉ク改選シナケレバナラヌ様ナ騒ガ出來マス、紛擾ガ出來マス、夫レ等ニ拘

ラズ、明治二十九年四月一日ト申セバ僅ナコトデアリマス、夫レニ施行ガ出
來マスコトデ御同意ニナツテ居リマス、此ニ點ヲ御尋申シマス、

○政府委員(江木千之君) 簡短デゴザイマス、此處カラ……衆議院ノ速
記録ノコトハ前後通シテ讀ンデ見マスレバ必シモ唯今御述ニナツテ居ル様ニ
モナラヌト思ハレマスガ、併シ衆議院速記録ノ解釋ヲシマスル代リニ本案ニ
對シテ政府ノ執ル所ノ意見ノ要點ヲ述ベマシタラバ自然御了解ニ相成ルコ
トカト考ヘマス、第一ニ此郡制改正案ニ對シテ政府ハ不同意ヲ表シテ居
リマス、ハ現行ノ複選法ヲ廢シテ直接選舉ニスルト云フコトハ是レハ政府
ハ決シテ同意ヲ表スルコトハ出來マセヌノデゴザイマス、尤モ現行ノ複選法
ニ附イテ不備ナ點ヲ補フト云フ如キコトハ敢テ異論ハナイノデゴザイマス、
夫レカラ第二ニ大地主ノ制ヲ廢スル事、是レモ政府ハ決シテ同意ヲ表スルコ
トハ出來マセヌ、併ナガラ條項ノ不備ナル所ヲ補フト云フガ如キ修正ナラバ
是レ亦敢テ不同意ハナイノデゴザイマス、夫レカラ改正案ノ要點ニナツテ居リ
マス、ハ郡ヲ法人トシテ自治ヲ許スト云フコトガ是レモ重ナル箇條ニナツ
テ居リマス、郡ヲ法人トナスコト云フコトハ附イテハ不同意ハゴザイマセ
ヌ、併ナガラ自治ヲ許ス、此自治ヲ許スト云フコトハ漫然ト許スコトハ同意ハ
シ兼ネルノデゴザイマス、或ハ法律勅令ノ範圍内ニ於テ是レダケノ自治ヲ許
スト云フコトデアレバ是レハ敢テ不同意ハナイノデゴザイマス、唯廣ク自治
ヲ許ス、少シモ制限ヲ加ヘズシテ自治ヲ許スト云フコトニ至ッテハ不同意ナ
デゴザイマス、夫レカラ其次ニ改正案ノ極要點ニナツテ居リマス、ハ郡條例
規則ノ制定ヲ許スコトガ這入ッテ居リマス、是レハ郡ニ自治權ヲ與ヘルコトデ
餘程重大ナコトデアリマス、之ニ附キマシテモ法律勅令ノ範圍内ニ於テ條例
規則ヲ設ケルコトヲ許スト云フナレバ同意ヲ致シマス、漫然ト條例規則
ヲ設ケルコト云フコトハ是レモ新シイコトデアリマス、併ナガラ郡ノ組合
ヲ設ケルコト云フコトハ是レモ新シイコトデアリマス、併ナガラ郡ノ組合
云フコトハ小郡デアッテ資力ノ乏シイモノデアッテ之ニ限ッテ組合ヲ許スト云
フコトデアレバ是レハ政府ハ異論ハナイノデゴザイマス、其次ニ郡參事會ノ
權限ヲ擴張スル郡會ノ權限ヲ擴張スルト云フ様ナ箇條ガアリマス、是レ
等モ或ル點マデハ同意シテ差支ナイノデゴザイマス、要スルニ此郡制改正案
即チ現行ノ郡制ヲ根底ヨリ變革スルト云フ如キ案ニ對シテハ政府ハ決シテ同
意スルコトハ出來マセヌノデゴザイマス、併ナガラ條項ノ不備ヲ補ヒ又ハ箇
條ニ修正ヲ加ヘル如キハ敢テ不同意ハゴザイマス、從ッテ九十九條ニ附イ
テノ御尋デゴザイマス、是レ等ノ條項ニ附イテハ或ハ同意ヲ表スベキモ
ノガアリ、或ハ同意ヲ表スベカラザルモノガアリマス、九十九條ノ如キハ決
シテ同意ヲ表スル方デハアリマセヌノデゴザイマス、

○議長(侯爵蜂須賀茂韶君) 本案ノ審査ヲ付託スベキ特別委員ノ選舉ニ移
リマス、

○子爵平松時厚君 此委員ハ議長ニ選定ヲ御依頼致シタイ、

○小原重哉君 平松子爵ニ賛成、

○山田卓介君 平松子爵ニ賛成、

○議長(侯爵蜂須賀茂韶君) 平松子爵ヨリ委員ノ選定ハ議長ニ託スル、此
動議ニ賛成ノ諸君ノ起立ヲ請ヒマス、

起立者 多數

○議長(侯爵蜂須賀茂韶君) 過半数デゴザイマス、明後四日ノ議事日程ヲ

御報告ニ及ビマス、午前十時開議、第一、請願委員長公露徳川家達君報告、
第二、商業會議所條例中改正法律案、政府提出、衆議院送付、第二讀會、第
三、屯田兵土地給與規則中追加法律案、政府提出、第一讀會ノ續、特別委員
長報告、第四、官給ニ係ル屯田兵ノ建物及馬匹ノ讓渡賣入書入ニ關スル法律
案、政府提出、第一讀會ノ續、特別委員長報告、本日ハ散會、

午後二時四十一分散會